DENON

AVサラウンドアンプ

AVC-1630

取扱説明書

安全にお使いいただくために—必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

総目次

ご使用になる前に

簡単セットアップ操作のしかた

接続のしかた

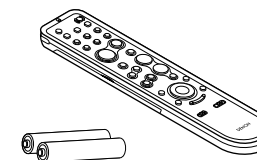
基本操作のしかた

応用操作のしかた

ご使用になる前に

付属品について

ご使用の前にご確認ください。

電源コード ……1本 【本機専用】 （コード長さ：約1.6m）	リモコン（RC-1047）…1個 単3形乾電池……2本
セットアップマイク …1個 （コード長さ：約6m）	取扱説明書（本書）……1冊 製品のご相談と修理・ サービス窓口一覧表 …1枚 保証書【梱包箱に添付】

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

【絵表示の例】

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

警告

❑ 安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

❑ 取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での
使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

❑ 安全上お守りいただきたいこと

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コード以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

《ご使用になる前に》

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のケーブルを使用してください。指定以外のケーブルを使用したり、ケーブルを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

⚠ 注意 つづき

❑ 安全上お守りいただきたいこと

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

❑ 置き場所について

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

❑ 取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

❑ 使わないときは

長期間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

❑ お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

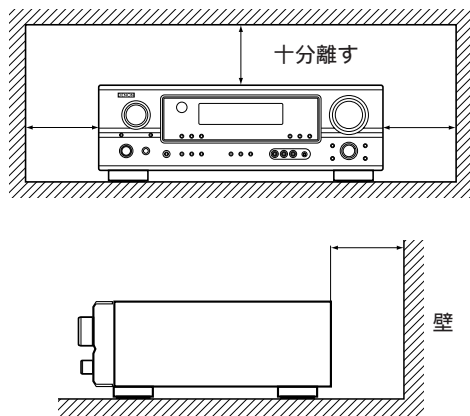
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

ステレオ音のエチケット

- 隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは十分に離して設置してください。

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音（ノイズ）が入ることがあります。携帯電話は本機から離れた位置でご使用ください。

お手入れについて

◎ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

◎ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますのでご使用にならないでください。

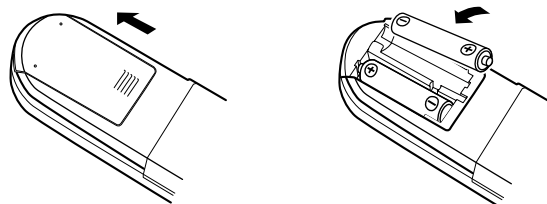
- 本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

リモコンについて

付属のリモコン（RC-1047）は、本機の操作以外に次の機器の操作もできます。
① DENON製コンポーネント製品
② DENON以外のコンポーネント製品
- プリセットメモリーによる設定（☞ 53ページ）

乾電池の入れかた

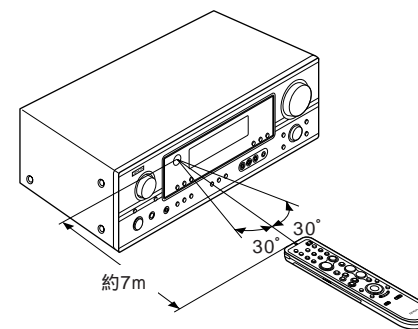
① 矢印のように押して引き上げます。

② 単3形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単3形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池を交換するときは、あらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

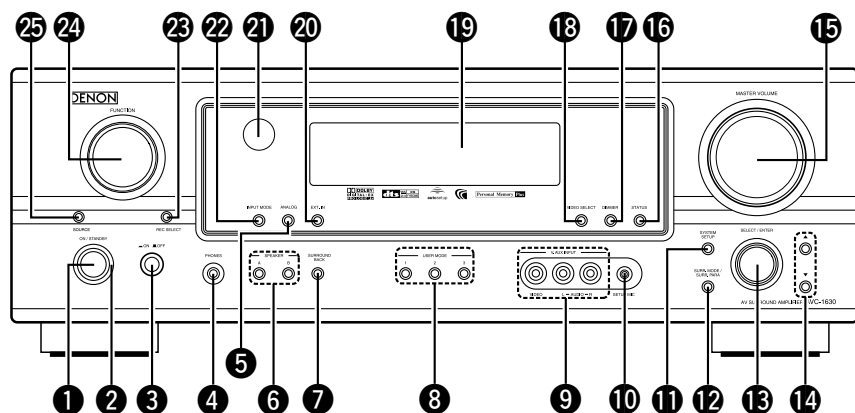
リモコンの使いかた

- リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 左右30 °までの範囲で約7m離れたところまでご使用になれます。

ご注意

リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。

各部の名前について

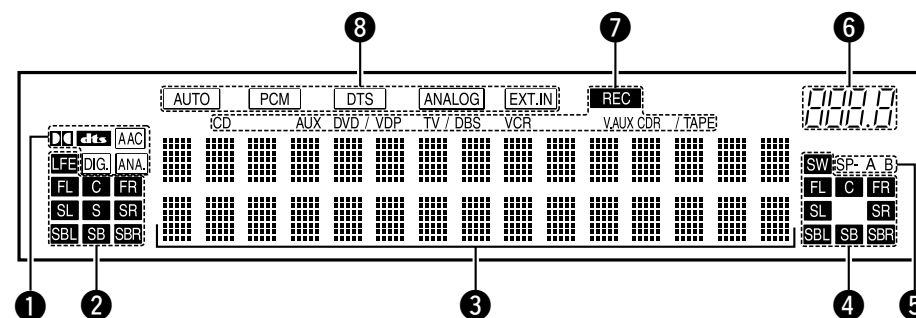
各部のはたらきなど詳しい説明については、（　）内のページを参照してください。

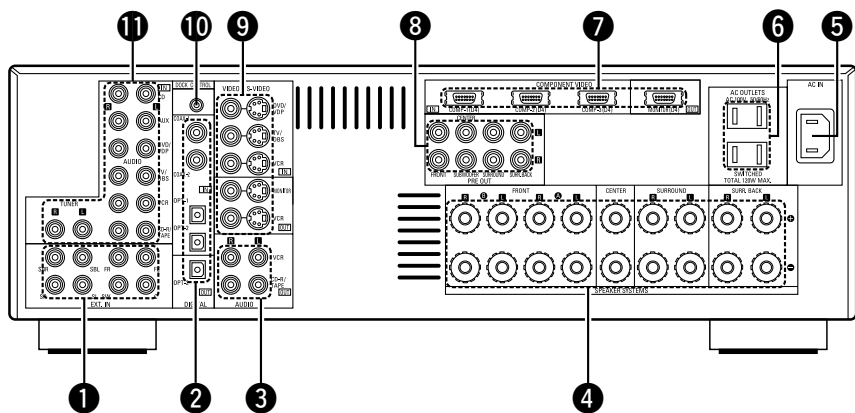
フロントパネル

❶ **電源ボタン（ON/STANDBY）** ……（14）
❷ **電源表示** ……（14）
❸ **電源スイッチ（▬ON/■OFF）** ……（14、39）
❹ **ヘッドホンジャック（PHONES）** …（24）
❺ **アナログボタン（ANALOG）** ……（23）
❻ **スピーカー切り替えボタン（SPEAKER）** ……（24、39）
❼ **サラウンドバックボタン（SURROUND BACK）** ……（26）
❽ **ユーザーモードボタン（USER MODE）** ……（36）
❾ **V.AUX入力端子（V.AUX INPUT）** ……（19）
❿ **セットアップマイクジャック（SETUP MIC）** ……（14）
⓫ **システムセットアップボタン（SYSTEM SETUP）** ……（15）
⓬ **サラウンドモード/サラウンドパラメーターボタン（SURR. MODE/SURR. PARA）** ……（23、24）
⓭ **セレクト/エンターつまみ（SELECT/ENTER）** ……（15、34）

- 本体の **SELECT/ENTER** つまみは、リモコンの **CURSOR** ◁、▷ ボタンと同じ動作をします。

- つまみを左に回すと **CURSOR** ◁ ボタン、右に回すと **CURSOR** ▷ ボタンと同じ動作をします。
- つまみを押すと、リモコンの **ENTER** ボタンと同じ動作をします。

⓮ **カーソルボタン（△, ▽）** ……（15）
⓯ **主音量調節つまみ（MASTER VOLUME）** ……（23）
⓰ **ステータスボタン（STATUS）** ……（24）
⓱ **ディマーボタン（DIMMER）** ……（24）
⓲ **ビデオセレクトボタン（VIDEO SELECT）** ……（36）
⓳ **ディスプレイ**
⓴ **外部入力ボタン（EXT. IN）** ……（23）
㉑ **リモコン受光部** ……（7）
㉒ **入力モード切り替えボタン（INPUT MODE）** ……（23）
㉓ **録音出力切り替えボタン（REC SELECT）** ……（39）
㉔ **入力ファンクション切り替えつまみ（FUNCTION）** ……（23）
㉕ **ソース切り替えボタン（SOURCE）** ……（23）

ディスプレイ

❶ **入力信号表示**
❷ **入力信号チャンネル表示**
入力信号に含まれる音声チャンネルが点灯します。
デジタル信号入力時に点灯します。
❸ **インフォメーションディスプレイ**
❹ **出力信号チャンネル表示**
本機から出力可能な音声チャンネルが点灯します。
❺ **スピーカー表示**
各サラウンドモードのフロントスピーカーの設定に合わせて点灯します。
❻ **主音量表示**
音量レベルまたはシステムセットアップ時の項目番号を表示します。
❼ **REC OUT表示**
REC SELECTモードを選んでいる場合に点灯します。（“SOURCE”を選んでいる場合は消灯します。）
❽ **入力モード表示**

リアパネル

❶ 外部入力端子（EXT. IN） …………(19)
❷ デジタル音声端子
（OPTICAL/COAXIAL）………(13、20)
❸ アナログ音声出力端子
（AUDIO OUT）…………………………(20)
❹ スピーカー端子 ……………………(12)
❺ ACインレット（AC IN）……………(22)
❻ ACアウトレット
（AC OUTLETS）………………………(22)
❼ コンポーネントビデオ端子
（COMPONENT VIDEO） …………(13)
❽ プリアウト端子（PRE OUT） ……(22)
❾ ビデオ/Sビデオ端子
（VIDEO/S-VIDEO） ………………(13)
❿ DOCK CONTROLジャック ………(21)
⓫ アナログ音声入力端子
（AUDIO IN） …………………………(13)

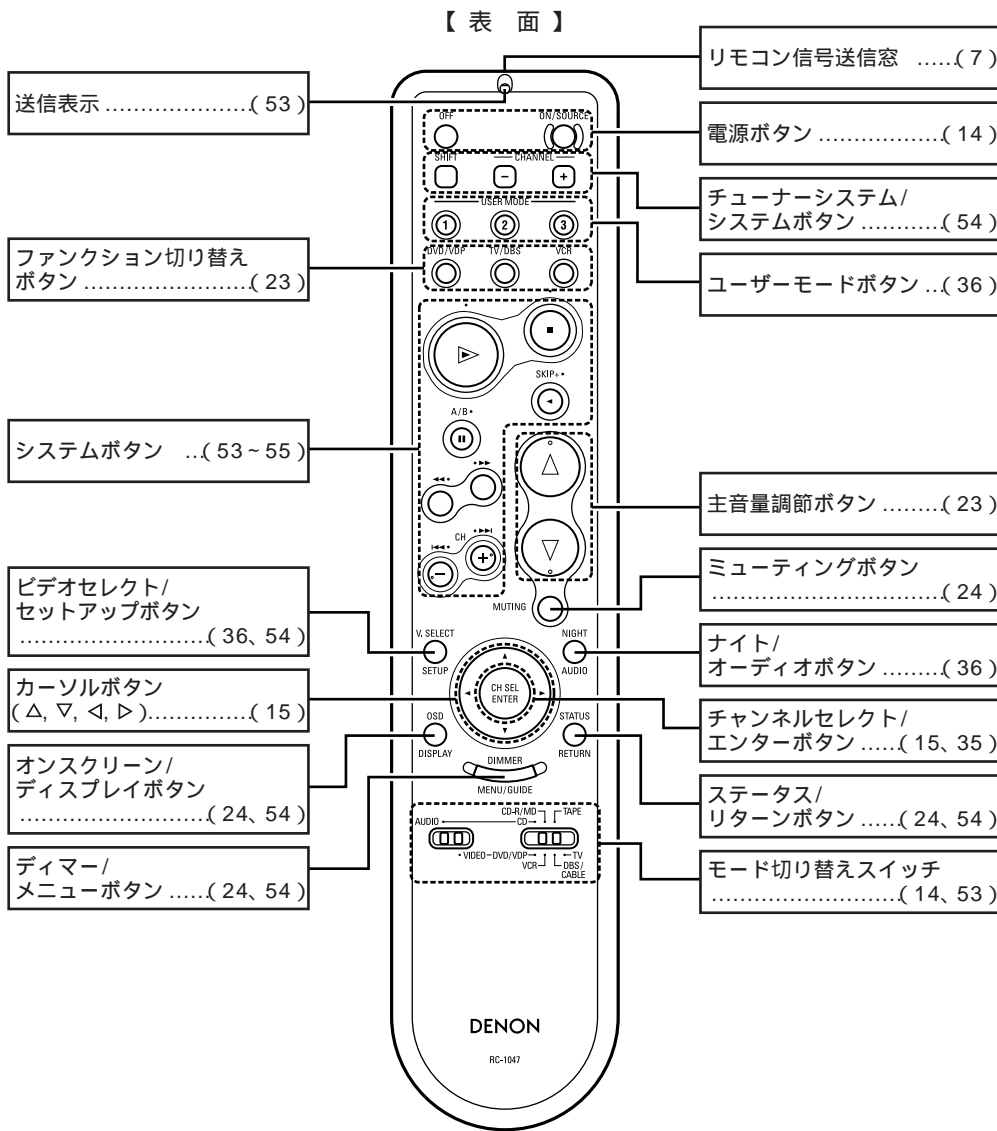
リモコン

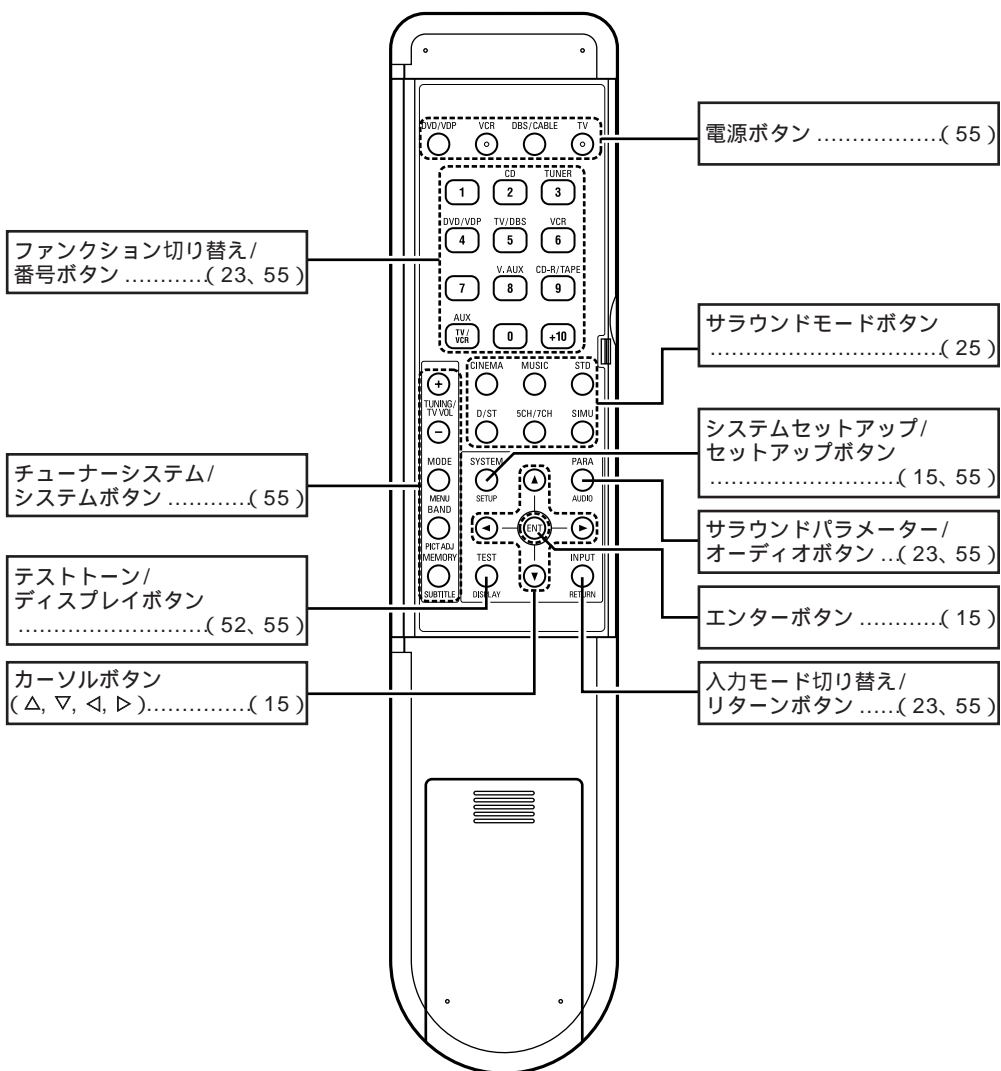
【表　面】

リモコン信号送信窓 ……(7)
送信表示 …………………(53)
電源ボタン ………………(14)
チューナーシステム/
システムボタン …………(54)
ファンクション切り替え
ボタン ……………………(23)
ユーザーモードボタン …(36)
システムボタン …(53～55)
主音量調節ボタン ………(23)
ミューティングボタン
……………………………(24)
ビデオセレクト/
セットアップボタン
……………………………(36、54)
ナイト/
オーディオボタン ………(36)
カーソルボタン
(△, ▽, ◁, ▷) ……………(15)
チャンネルセレクト/
エンターボタン ……(15、35)
オンスクリーン/
ディスプレイボタン
……………………………(24、54)
ステータス/
リターンボタン ……(24、54)
ディマー/
メニューボタン ……(24、54)
モード切り替えスイッチ
……………………………(14、53)

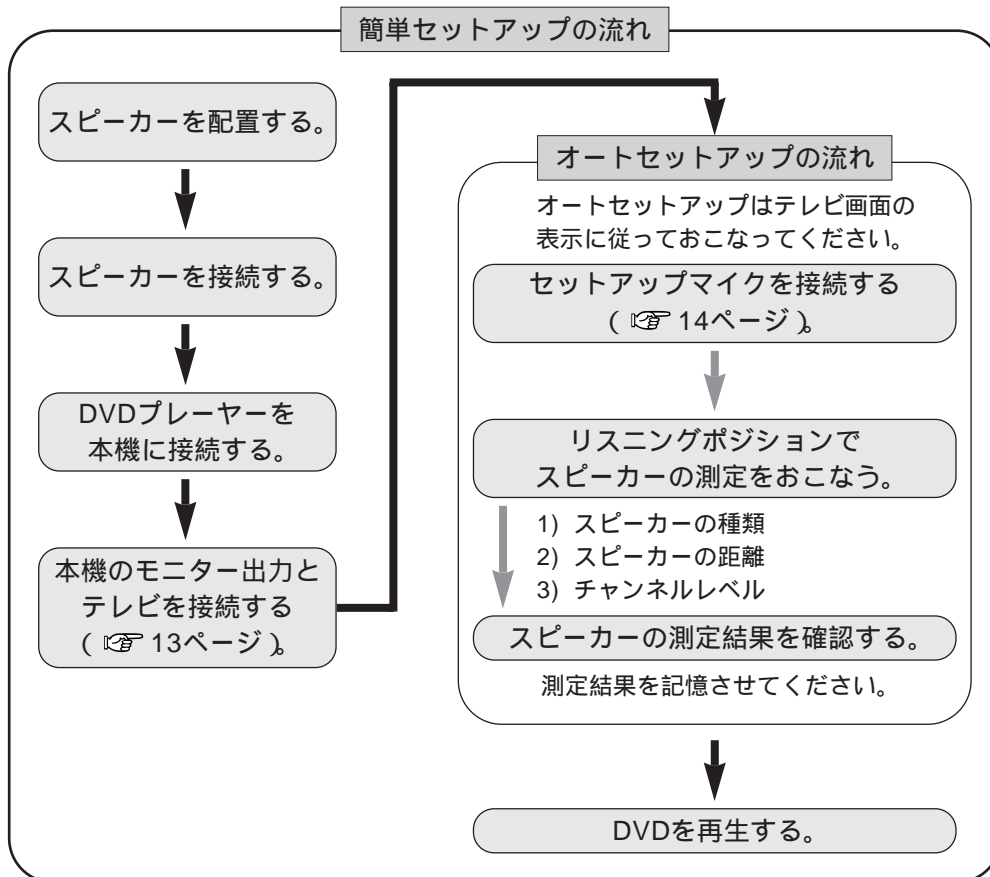
ご注意

表面または裏面のボタンを強く押すと、それぞれの反対側のボタンも一緒に動作してしまう場合がありますのでご注意ください。

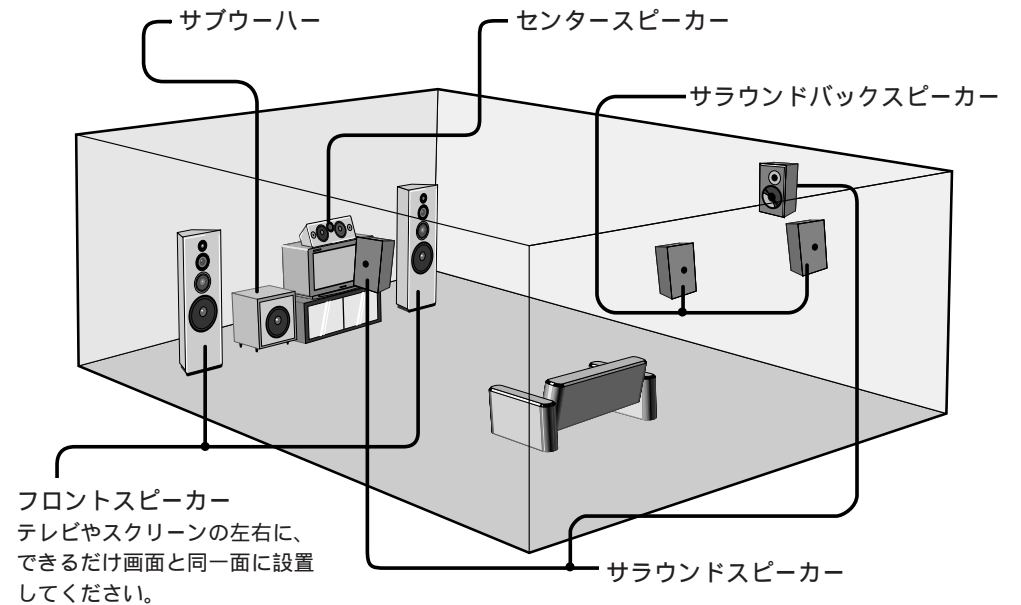
《ご使用になる前に》

【 裏　面 】

ご注意

表面または裏面のボタンを強く押すと、それぞれの反対側のボタンも一緒に動作してしまう場合がありますのでご注意ください。

簡単セットアップ操作のしかた

- 簡単セットアップをおこなうことで、あなたの部屋のリスニング環境に適したサラウンド再生をおこなうことができます。
- 手動による音場の設定をおこなう場合は、50〜52ページを参照してください。

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。

スピーカーの配置のしかた【基本的なレイアウト】

スピーカーシステム（8台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

スピーカーの接続のしかた

スピーカー端子とスピーカーは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。

ご注意

- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルやねじに接触しないようにご注意ください。
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

スピーカーケーブルの接続

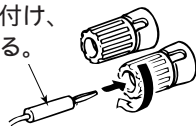
① スピーカー端子を左に回してゆるめます。

芯線をよくねじるか、端末処理をしてください。

② ケーブルの芯線を差し込みます。

③ 右に回して端子を締めます。

バナナプラグの接続

右に回して端子を締め付け、バナナプラグを挿入する。

❏ スピーカーのインピーダンスについて

スピーカー	インピーダンス
フロントA、B	6～16Ω
フロントA＋B	12～16Ω
センター	6～16Ω
サラウンド	
サラウンドバック	

スピーカーインピーダンスのご注意

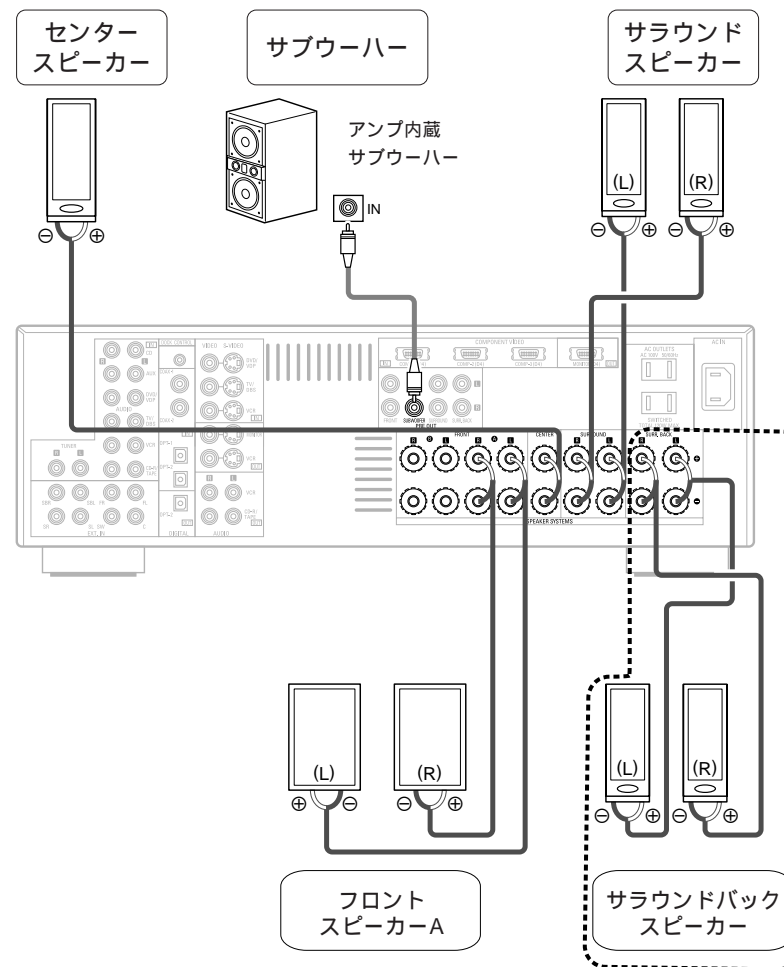
指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例：4Ω）を使用して、長時間大音量で再生すると、温度が上昇して保護回路が動作します。

保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてから本機が冷えるのを待ち、周囲の通風状態を良くしてください。また、スピーカーケーブルや入力ケーブルの配線を確認してください。その後、もう一度電源コードを挿入して、本機の電源を入れ直してください。

本機の周囲の通風や配線に問題がないのにも関わらず保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

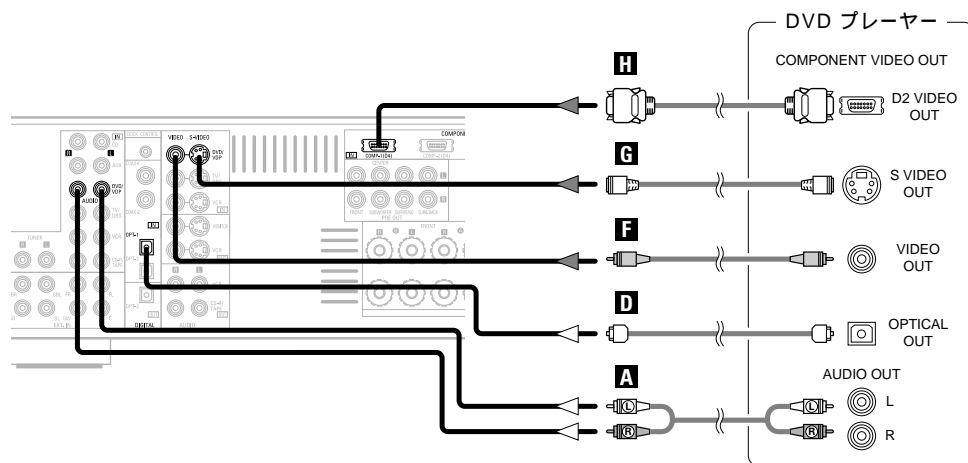
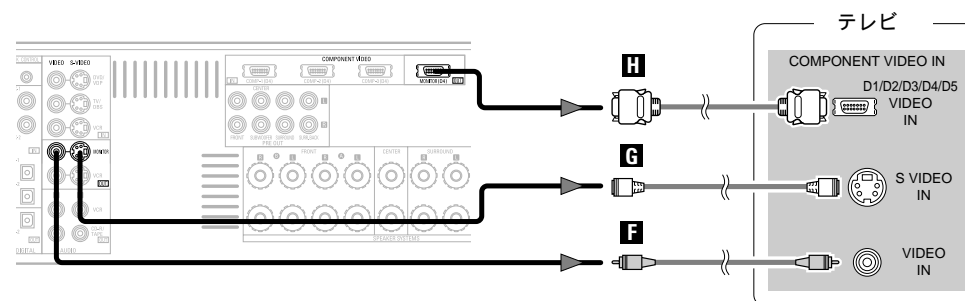
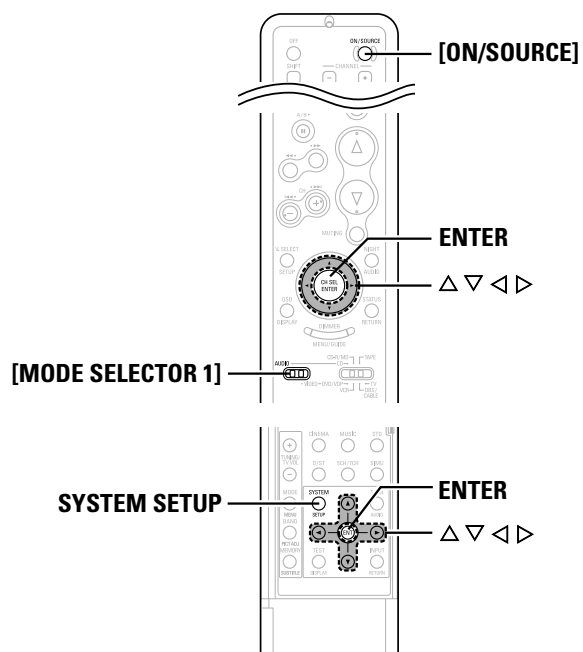
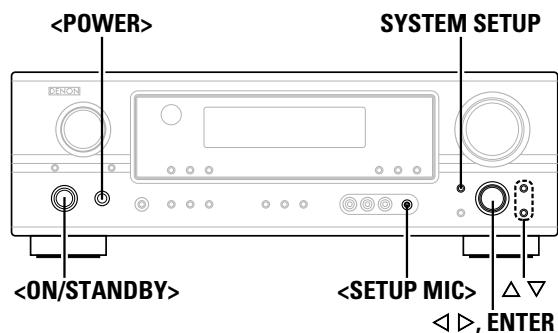
❏ 接続のしかた

- 本機には最大10台のスピーカーを接続してサラウンド再生をお楽しみいただけます。
- 接続の際は、スピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。
- フロントスピーカーBは、フロントスピーカーAと同様に接続できます。

【例】5.1チャンネル接続

- 7.1チャンネルで再生するときは、サラウンドバックスピーカーを接続してください。
- サラウンドバックスピーカーを1本でご使用になる場合は、Lチャンネルに接続してください。

DVDプレーヤーとテレビの接続のしかた

- DVDプレーヤーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子ケーブルのいずれかで本機と接続します。(すべてのケーブルを接続する必要はありません。)
  詳しくは、「ビデオコンバージョン機能について」(☞ 18ページ)をご覧ください。
- デジタル音声を再生する場合は、同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。同軸デジタルケーブルをご使用になる場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります(☞ 43ページ)。
- ビデオディスクプレーヤーは、同じ方法で接続できます。

《簡単セットアップ操作のしかた》

- 本機の映像出力は、ビデオ、Sビデオ、D端子ケーブルのいずれかでテレビと接続します。(すべてのケーブルを接続する必要はありません。)

- テレビによってコンポーネントビデオ入力端子の表示が異なります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をお読みください。
- 本機のD端子は、D1〜D4(480i、480p、1080i、720p)の映像端子に対応しています。
- 本機のコンポーネントビデオモニター出力端子とテレビを映像用75Ωピンプラグケーブルや D端子/コンポーネント変換ケーブルで接続した場合は、D端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

【操作説明のボタン名について】

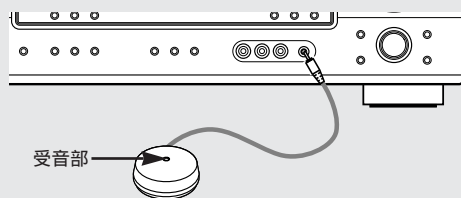
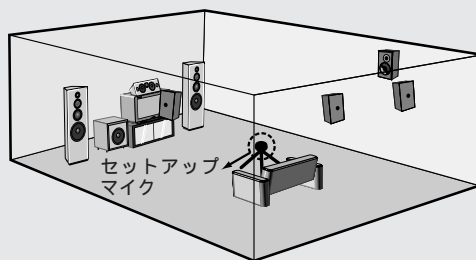
< 　　>： 本体のボタン
[　　]： リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

オートセットアップ機能について

本機のオートセットアップ機能は、付属のセットアップマイクでお部屋の音響特性を測定し、最適なセッティングを自動でおこなうことができます。

- 手動による音場の設定をおこなう場合は、50〜52ページをご覧ください。

① セットアップマイクを接続する

1 <SETUP MIC> に付属のセットアップマイクを接続する。

2 セットアップマイクをカメラ用三脚などに取り付け、受音部を天井に向けた状態で設置する。

※ セットアップマイクの受音部分の高さをリスニング時の耳の位置に合わせてください。
※ セットアップマイクとスピーカーの間に障害物を置かないでください。

ご注意

セットアップマイクは、測定が終わるまで絶対に抜かないでください。

② オートセットアップの前に

1 サブウーハーの電源を入れる。

※ ご使用のサブウーハーに音量設定およびクロスオーバー周波数設定機能がある場合は、サブウーハーの音量を「中央」、クロスオーバー周波数を「最大」またはローパスフィルターを「オフ」にしてください。
※ スタンバイモード機能がある場合は、必ず「オフ」にしてください。

2 テレビの電源を入れる。

3 <POWER> を押す。

ON：	電源表示が赤色に点灯します。
OFF：	電源表示が消灯します。

4 <ON/STANDBY> または［ON/SOURCE］を押す。

- 電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

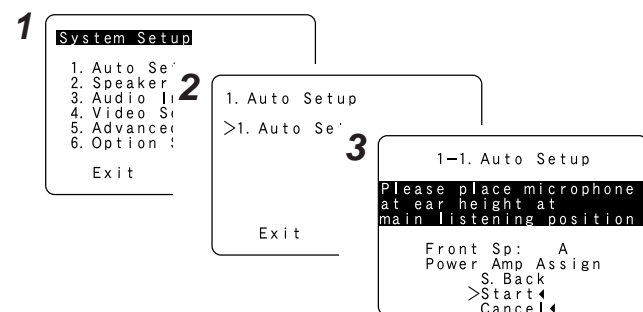
5 ［MODE SELECTOR 1］を“AUDIO”に切り替える。

③ オートセットアップをおこなう

1 **SYSTEM SETUP を押す。**

2 **△ ▽ で " Auto Setup " を選び、ENTER を押す。**

3 **△ ▽ で " Auto Setup " を選び、ENTER を押す。**

※ " Connect Microphone " が表示されたら、付属のセットアップマイクを接続してください。

● ヘッドホンを使用している場合、" System Setup " メニューは表示されません。

④ パワーアンプの割り当ての変更

サラウンドバックの出力を " Front " の出力に割り当てることができます。

△ ▽ で " Power Amp Assign " を選び、◁ ▷ で設定する。

Surround Back：
サラウンドバックスピーカーとしてご使用になるときに割り当てます。

Front A, Front B：
フロントAまたはフロントBスピーカーをバイアンプ接続でご使用になるときに割り当てます。

※" Front A " または " Front B " を割り当てると、サラウンドバックチャンネルの測定を省略します。

⑤ フロントスピーカーを切り替える

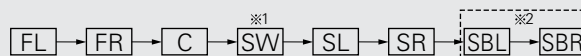
△ ▽ で " Front Sp " を選び、◁ ▷ でスピーカーを選ぶ。

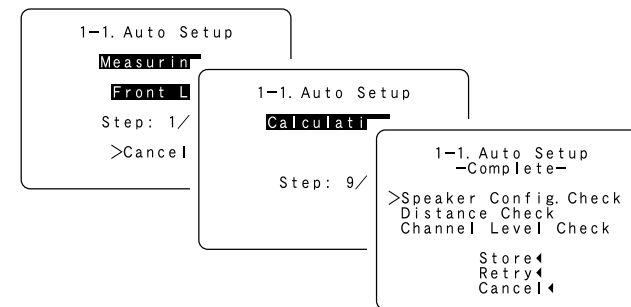
Front A ←→ Front B ←→ Front A+B

⑥ スピーカーの測定

△ ▽ で " Start " を選び、◁ を押す。

● 測定をはじめます。

※ 各チャンネルの測定は、下記の順序でおこないます。

※1：サブウーハーは2回測定します。
※2：「パワーアンプの割り当ての変更」（48ページ）で " Front A " または " Front B " が選ばれたときは表示しません。

● 各チャンネルを測定した後、" Calculating " を表示します。
● 自動的に " Auto Setup Check " 画面に切り替わります。

ご注意

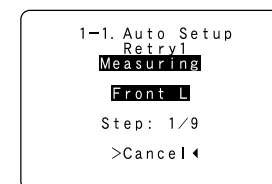
● 測定をおこなった後、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。
● メモリー中は電源を切らないでください。

測定中のご注意

● 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などが近くにいる場合はご注意ください。
● 各スピーカーとセットアップマイクの間に障害物があると正しく測定できない場合があります。
● 測定中はスピーカーとセットアップマイクの間や近くに立たないでください。
● 測定に悪影響を与えないためにも、エアコンや音の出る機器の電源は切り、できる限り静かな環境で測定をおこなってください。
● 測定中に **VOLUME** を動かすと測定を中止します。

❑ 再測定について

最適な測定結果を得るために再測定が必要な場合は、自動的に再測定をおこないます。

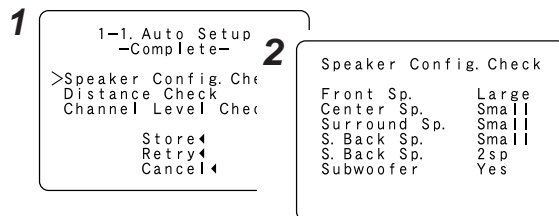
● 再測定は2回までおこないます。
● 再測定中は、" Retry1 " または " Retry2 " を表示します。

⑦ 測定結果の確認とメモリー

1 **△ ▽ で項目を選び、ENTER を押す。**

- 確認画面を表示します。

2 **確認が終了したら、ENTER を押し、△ ▽ で設定する。**

Store：	すべての設定内容を記憶します。
Retry：	再度測定をします。 測定をくり返します。
Cancel：	オートセットアップの設定を取り消します。

3 **“ Store ” を選んだ場合：**
◁ を押す。

- セットアップマイクを使用して測定した場合、サブウーハーなどのフィルター内蔵スピーカーは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

エラーメッセージについて

- オートセットアップの測定をおこなったとき、スピーカーの配置や測定環境などのために自動測定が完了できなかった場合は、これらのエラー画面を表示します。下記をご確認の上該当する項目を設定し直して再度測定してください。
- 部屋の騒音が大きすぎる場合には、正しくスピーカーが検出できない場合があります。このような場合には、騒音の小さい時間に測定をおこなうか、測定の間は騒音を発生する機器の電源を切ってください。

△ ▽ で項目を選び、◁ を押す。

例	原　因	処　理
1−1. Auto Setup −CAUTION− > Front L : None Retry◂ Cancel◂	① 適切な再生をおこなうために必要なスピーカーが検出されなかった場合。	● 該当するスピーカーが正しく接続されているかを確認してください。
1−1. Auto Setup −CAUTION− > Front L :Phase Retry◂ Cancel◂ Skip◂	② スピーカーの極性が逆に接続されている場合。	● 該当するスピーカーの極性を確認してください。 ● スピーカーによっては正しく接続していてもこの画面が表示される場合があります。このような場合は、“ Skip◀ ” を選んでください。
1−1. Auto Setup −CAUTION− Mic Input Overload >Exit◂	③ マイクへの入力レベルが高すぎるために正確な測定ができない場合。	● 視聴位置をスピーカーから離してください。 ● サブウーハーの音量を下げてください。
1−1. Auto Setup −CAUTION− Setup Mic :None Press Enter or Cursor Down to Return to Auto Setup Menu	④ 測定用マイクが接続されていない場合。	● **<SETUP MIC>**に付属のセットアップマイクを接続してください。

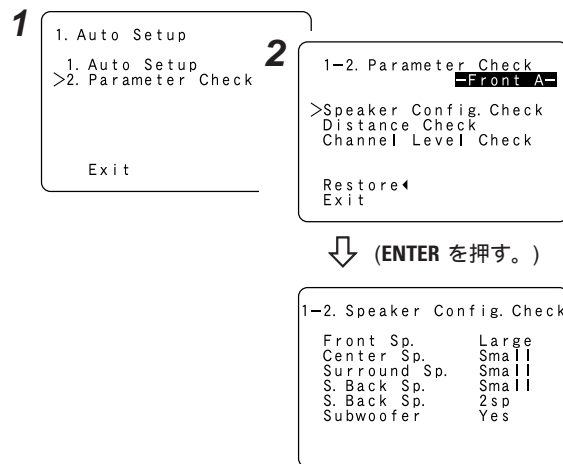
オートセットアップの測定結果の確認と再設定

オートセットアップの測定結果を確認できます。
また、オートセットアップの測定結果を確定した後に、再度設定を変更できます。

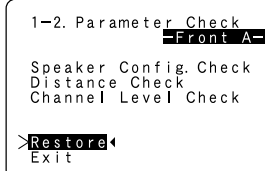
❑ オートセットアップの測定結果を確認する

1 △ ▽ で " Parameter Check " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で項目を選び、ENTER を押す。

3 ENTER を押す。

【例】「スピーカーの種類・有り無し」の確認

❑ 再度設定する

△ ▽ で " Restore " を選び、◁ を押す。

接続のしかた

接続ケーブルの表示

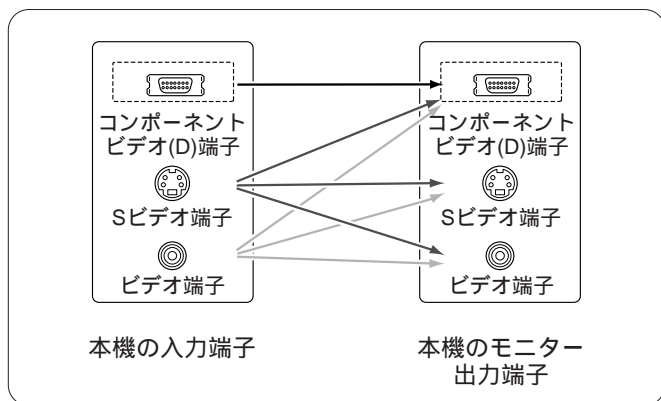
下記に示す接続ケーブル（別売り）を使用して、他の機器を接続してください。

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルを一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因になります。

ビデオコンバージョン機能について

本機のモニター出力には映像信号のコンバージョン機能を装備しています。
このため、再生機器と本機の映像入力端子との接続方法に関わらず、本機のモニター出力端子とテレビ間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを1本接続するだけで視聴できます。

【本機内部での映像信号の流れ】

映像信号のアップコンバート機能についてのご注意

本機とテレビ（モニター、プロジェクターなど）との接続にコンポーネント映像端子を使用し、本機とVCR（ビデオデッキ）を映像端子（黄色）またはSビデオ端子を使用して接続した場合、ご使用になるテレビとVCRの組み合わせによっては、ビデオテープを再生したときの画像に横方向の揺れや歪みが発生したり、同期が外れて映らなくなる場合があります。
このような場合には、市販のTBC（タイムベースコレクター）機能を持ったビデオスタビライザーなどを本機とVCR間に挿入して接続するか、お手持ちのVCRにTBC機能がある場合は、機能を「ON」にしてご使用ください。

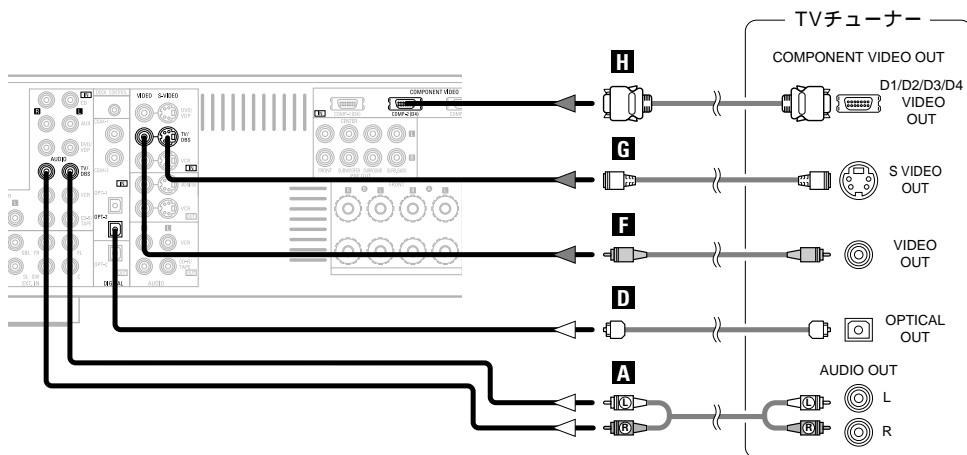
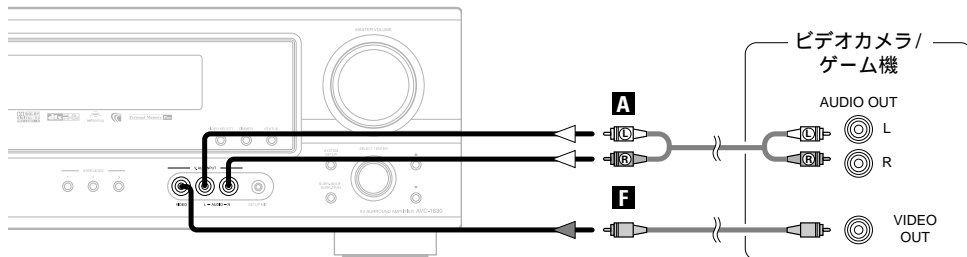
《接続のしかた》

オンスクリーンディスプレイ表示信号について

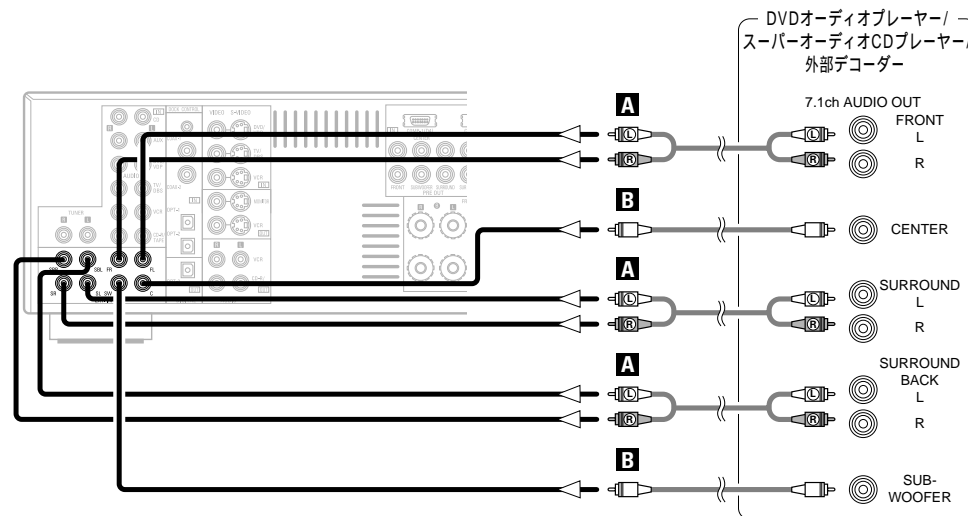
	本機への信号入力		オンスクリーンディスプレイ表示信号の出力		
	映像信号入力端子（黄）	Sビデオ信号入力端子	映像信号モニター出力端子（黄）	Sビデオ信号モニター出力端子	コンポーネントビデオ（D）信号モニター出力端子
1	×	×	○	○	○
2	○	×	○	○	○
3	×	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○

（○：信号有り　×：信号無し）　（○：オンスクリーン出力有り　×：オンスクリーン出力無し）

TV/DBSチューナーの接続

- TV/DBSチューナーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子ケーブルのいずれかで接続します。
- デジタル音声は、同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。同軸デジタルケーブルをご使用になる場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞ 43ページ）。

ビデオカメラまたはゲーム機の接続

《接続のしかた》

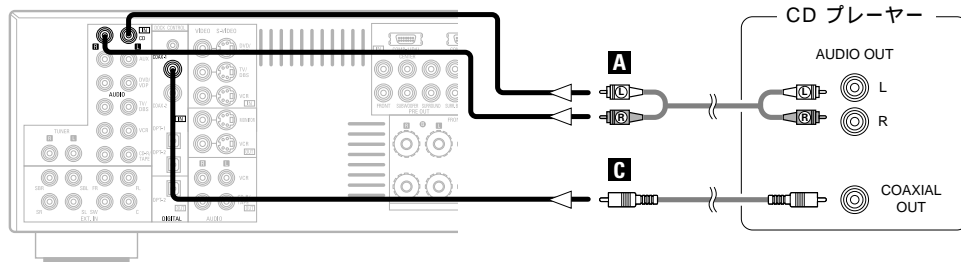
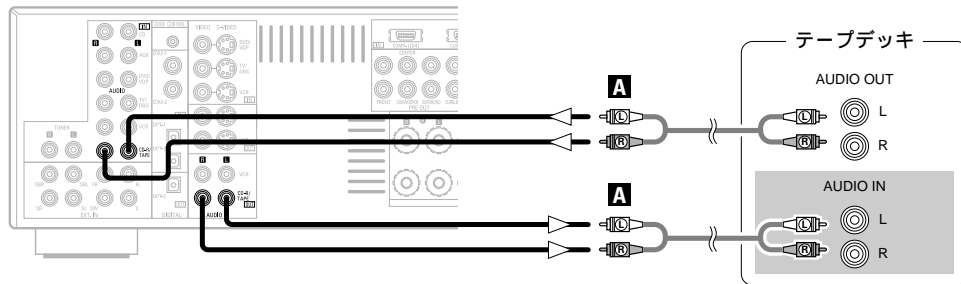
外部入力端子の接続

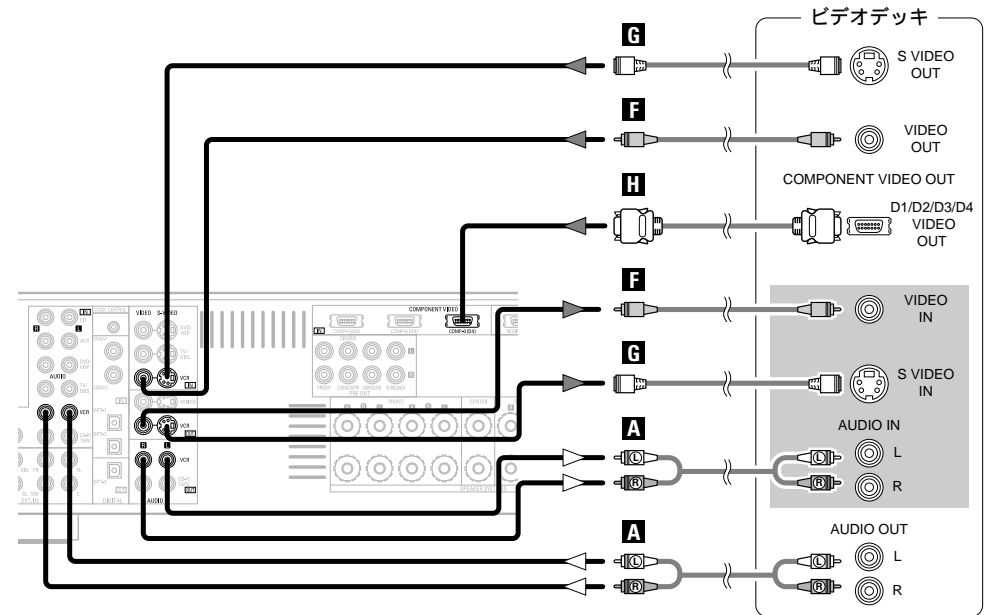
- 本機には7.1チャンネル用アナログ外部入力端子を備えています。この入力端子は、ハイビジョンのMUSE　3-1方式やDVDオーディオプレーヤーなどのマルチ・チャンネル音声を入力するための端子です。
- ビデオ信号の接続のしかたは、DVDプレーヤーと同じです（☞ 13ページ）。
- EXT.　IN端子に接続されたアナログ入力信号の再生方法を設定するときは、「入力機器の再生のしかた」（☞ 23ページ）をご覧ください。

- ハイビジョン（MUSE　3-1方式）を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合は、別売りのモノ/ステレオ変換ケーブルをご使用ください。

CDプレーヤーの接続

デジタル音声は、同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。光伝送ケーブルをご使用になる場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞43ページ）。

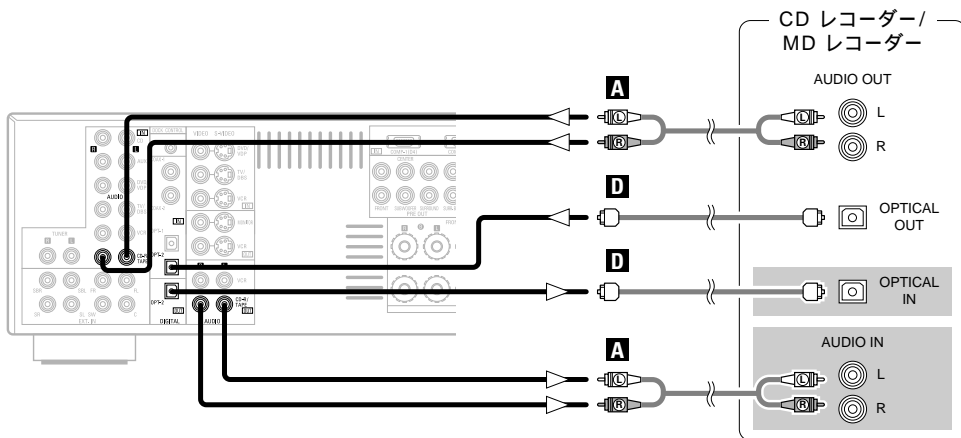
テープデッキの接続

《接続のしかた》

ビデオデッキの接続

- ビデオデッキの映像出力は、ビデオ、Sビデオ、D端子用接続ケーブルのいずれかで接続します。
- アナログの音声を録音する場合は、アナログ端子に接続する必要があります。
- 同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルをご使用になる場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞43ページ）。

- 本機を通して録画するときは、再生機器のケーブルの種類と本機のVCR出力端子に接続するケーブルの種類を同じにする必要があります。

【例】 TV入力 → S端子用接続ケーブル：VCR出力 → S端子用接続ケーブル
TV入力 → 映像用75Ωピンプラグケーブル：VCR出力 → 映像用75Ωピンプラグケーブル

CDレコーダーまたはMDレコーダーの接続

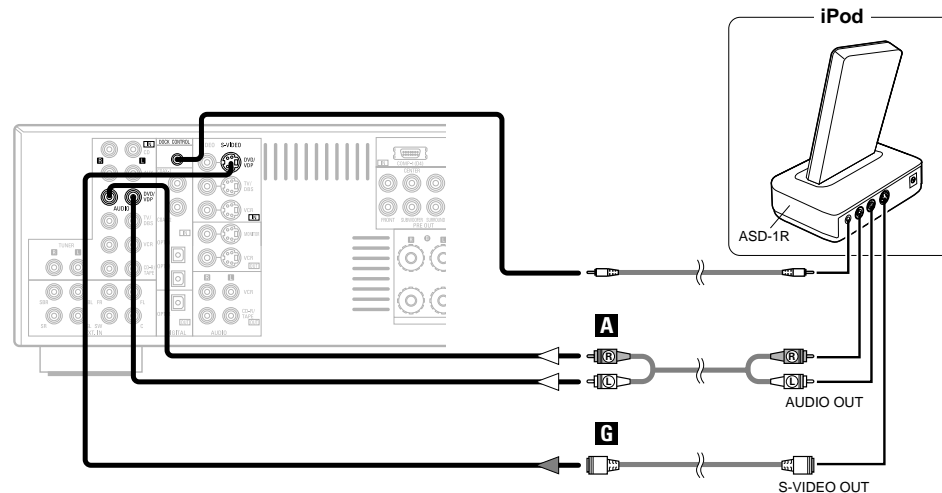
- アナログ音声を録音する場合は、アナログ端子に接続する必要があります。
- 同軸デジタルケーブルまたは光伝送ケーブルをご使用になる場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります（☞ 43ページ）。

- 現在選ばれているソースがデジタル出力端子（OPT-2）から出力されます。
  REC SELECTモードで選ばれているソースと、デジタル出力端子（OPT-2）からの出力は連動しません。

ご注意

本機のOPTICAL 2出力端子に接続された機器の出力をOPTICAL 2入力端子以外に接続しないでください。

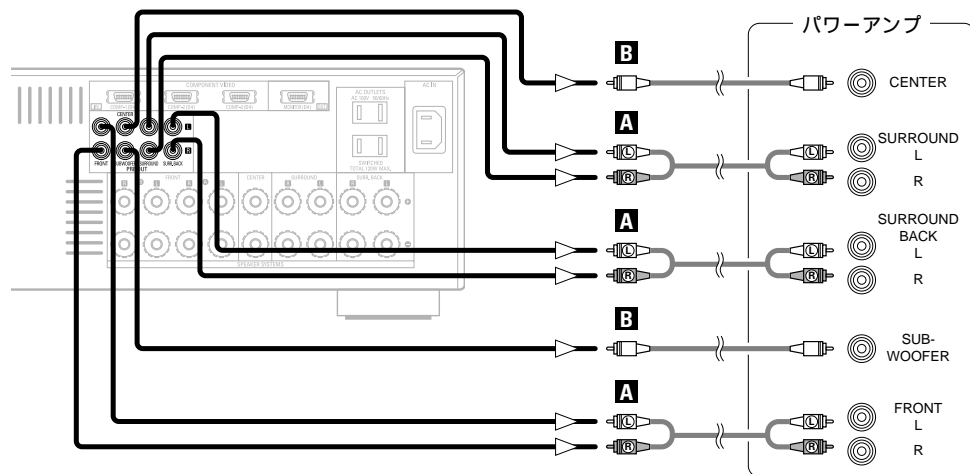
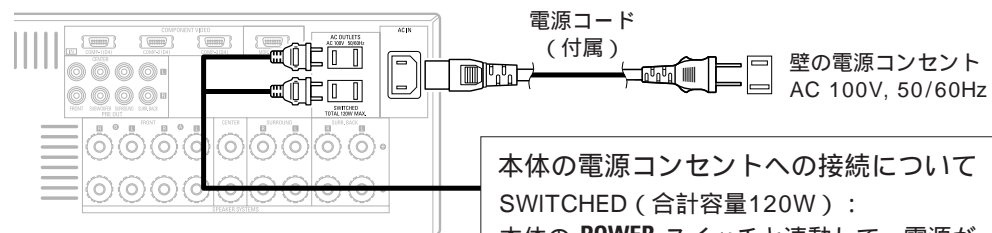
iPod®の接続

iPodをご使用の際はiPod用コントロールドック（ASD-1R)と本機のDOCK CONTROL端子をミニジャックで接続し、任意のオーディオ端子および（または）Sビデオ端子に割り当てをおこなう必要があります。
下図はiPodをDVD/VDP端子に割り当てた場合の接続例です。

※ 任意の端子の割り当てかたは、「iPodの入力の設定」（☞ 44ページ）を参照してください。
※ iPodを使用する場合は、「iPodの再生のしかた」（☞ 37ページ）を参照してください。

- 本機とiPodの接続には、iPod用コントロールドック（ASD-1R、別売り）をご使用ください。
- iPod用コントロールドックの設定も必要です。詳しくは、iPod用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

PRE OUT端子の接続

パワーアンプ（別売り）を使用してフロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックの音声をパワーアップするときに使用します。

《接続のしかた》

電源コードの接続

本体の電源コンセントへの接続について

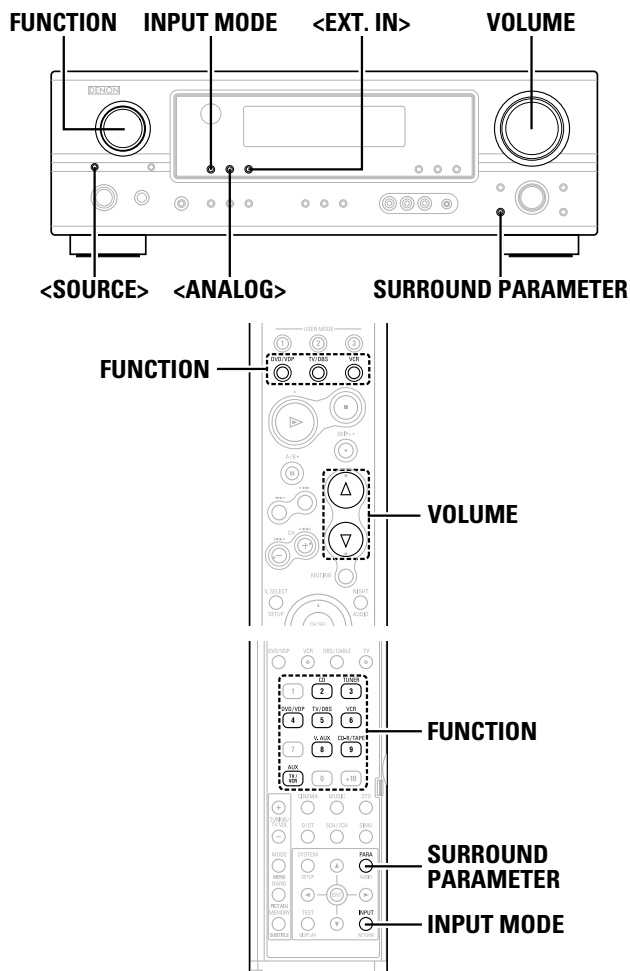
SWITCHED（合計容量120W）：
本体の **POWER** スイッチと連動して、電源がオン/オフします。また、リモコンで電源をオン/スタンバイにした場合にも連動します。
本体のスタンバイ中は電源コンセントはオフになります。合計で120W以上の機器は絶対に接続しないでください。

ご注意

- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。
- 本体の電源コンセントへはオーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。CDプレーヤー、テープデッキなど本機に接続した機器の電源プラグを差し込んでおくと便利です。

【操作説明のボタン名について】

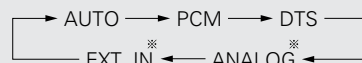
<　　>：　本体のボタン
[　　]：　リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

基本操作のしかた

入力機器の再生のしかた

1 FUNCTION で入力ファンクションを選ぶ。

※“ REC SELECT ” を選んでいる場合は、<**SOURCE**> を押してから <**FUNCTION**> を回してください。

2 INPUT MODE を押す。

- 入力モード表示が点灯します。

※ 本体で “ ANALOG ” を選ぶ場合は <**ANALOG**>、“ EXT. IN ” を選ぶ場合は <**EXT. IN**> を押してください。

AUTO（オールオートモード）：
入力信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドモードに切り替えて再生します。「デジタル入力の設定」（☞ 43ページ）で設定をしているファンクションで選ぶことができます。
DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式に自動的に切り替わります。
デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力端子に切り替わります。

PCM（PCM信号再生専用モード）および
DTS（DTS信号再生専用モード）：
それぞれの信号が入力されたときに再生します。入力信号と違うモードに設定すると、ノイズを発生する場合があります。

ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）および
EXT. IN（外部デコーダー用入力端子選択モード）：
それぞれの入力端子に入力されている信号を再生します。

※ EXT. INモードのときにサブウーハーの出力レベルを下げるときは、**SURROUND PARAMETER** を押して“ SW. ATT ” を選んでください。
プレーヤーによってはSWチャンネルの再生レベルが大きいと感じる場合があります。このときは “ ON ” にしてください。

3 選択した機器の再生をはじめる。

※ 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

4 VOLUME で音量を調節する。

- 音量を主音量レベル表示に表示します。

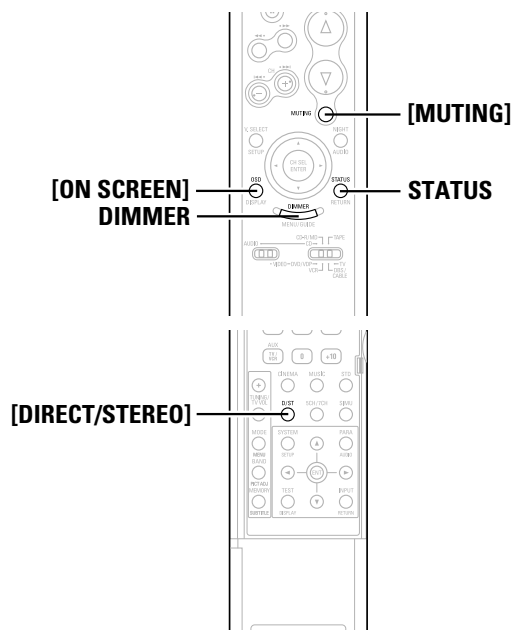
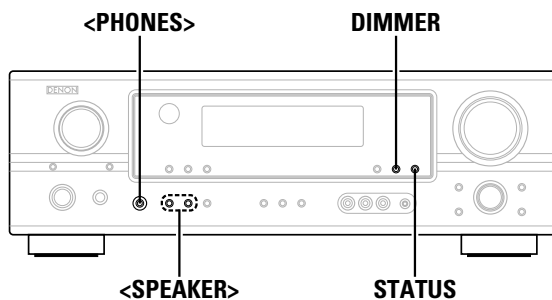
※ 音量は、−80〜0〜18dBの範囲内で調節できます。ただし、チャンネルレベルの設定値や各サラウンドモードの設定状態、ダウンミックスモードのときは、音量を18dBまで調整できない場合があります。

- 外部入力（EXT.　IN）モードを解除するときは、**INPUT MODE** または <**ANALOG**> を押して、再生したい入力モードに切り替えてください。
- 外部入力モードを映像と合わせてお楽しみいただく場合は、映像信号を接続した入力ファンクションを選択後、<**EXT. IN**> を押してください。
- デジタル信号が正常に入力されると “ DIGITAL ” が点灯します。点灯しない場合は、「デジタル入力の設定」（☞ 43ページ）または接続が正しいかを確認してください。

ご注意

- 入力モードを外部入力に設定している場合は、サラウンドモードの設定はできません。
- 外部入力モード以外の再生モードでは、この端子に入力された信号は再生できません。

DTSソースの再生をおこなう場合のご注意

- DTSのソースは、必ずデジタル入力端子に接続し、入力モードを “ AUTO ” または “ DTS ” にしてください。ANALOGモードやPCMモードで再生すると、ノイズが発生します。
- “ AUTO ” モードでDTSを再生した場合、再生のはじめやサーチ中にノイズが発生する場合があります。このような場合は、“ DTS ” モードで再生してください。

【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：本体のボタン
［　　］：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

《基本操作のしかた》

一時的に音を消す（ミューティング）

[MUTING］を押す。

※ ミューティングレベルの調整ができます（☞ 49ページ）。

● 解除する場合は、[MUTING］を押すか、音量を調節してください。

ヘッドホンで音を聴く

＜PHONES＞ にヘッドホンのプラグをを差し込む。

● 自動的にスピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。

フロントスピーカーを切り替える

＜SPEAKER＞ でフロントスピーカー（フロントAまたはB、フロントA＋B）を選ぶ。

今再生しているプログラムソースなどを確認する

❑オンスクリーンディスプレイの場合

[ON SCREEN］を押す。

● オンスクリーンディスプレイに、現在のプログラムソースや各種設定を表示します。

❑ディスプレイの場合

STATUS を押す。

● ディスプレイに、現在のプログラムソースや各種設定を表示します。

ディスプレイの明るさを切り替える

DIMMER を押す。

※ ディスプレイの明るさが3段階に変化し、消すこともできます。

サラウンドモードの使いかた

サラウンドモードの種類と特長

本機にはたくさんのサラウンドモードがあります。それらの中で信号ソースの特長を生かして最高の効果を得るために下記のサラウンドモードを使用することをおすすめします。

※ ▭ は、6.1/7.1チャンネル再生のサラウンドモードです。

ドルビーデジタルEXで録音されたソース

DOLBY DIGITAL EX / +PLⅡx* （☞26ページ）
- ドルビーデジタルEXで録音されたソースの再生に最適化したモードです。

DTS ESで録音されたソース

DTS ES DSCRT 6.1 / MTRX 6.1 / +PLⅡx* （☞26ページ）
- DTS ESで録音されたソースの再生に最適化したモードです。

ドルビーデジタルまたはDTSサラウンド（5.1チャンネルソース）
ドルビーサラウンドで録音された2チャンネルソース

DOLBY DIGITAL / DOLBY DIGITAL+PLⅡx* / DTS SURROUND / DTS 96/24 / DTS+PLⅡx* / DTS+NEO:6 （☞26ページ）
- 5.1チャンネルまたは7.1チャンネル再生に最適化したモードです。
- ドルビーサラウンド録音ソースは、自動的にドルビープロロジックⅡで再生します。

ステレオ録音ソース
モノラル録音ソース

DIRECT/STEREO
- 2チャンネル再生をおこなう場合に有効です。
- 音質調整やスピーカー配置で低域振り分けが不要な場合は、DIRECTモードを選択することにより最高の音質で楽しめます。

DENONオリジナルサラウンドモード （☞33、34ページ）
- ステレオまたはモノラル録音ソースで、7.1チャンネル再生をおこなう場合に選択します。
- 各サラウンドモードごとに効果は異なるので、ソースの内容に合わせてお好みで選択してください。

DTS NEO:6 （☞29ページ）
- デジタルシアターシステムズ社により開発されたステレオソースを、6.1または7.1チャンネルで再生するサラウンドモードです。
- MUSIC（音楽ソース）とCINEMA（映画ソース）の2通りの再生モードをお好みに合わせて選択できます。

DOLBY PRO LOGIC Ⅱx* （☞28ページ）
- ドルビー研究所により開発されたステレオソースを、7.1チャンネルで再生するサラウンドモードです。
- MUSIC（音楽ソース）、CINEMA（映画ソース）およびGAME（ゲームソース）の3通りの再生モードをお好みに合わせて選択できます。

- ＊印のサラウンドモードについては、サラウンドバックスピーカーを“ NONE ”に設定した場合は選択できません。
- “ ＋PLⅡx Cinema ” モードは、サラウンドバックスピーカーを2台使用した場合のみ選択できます。

再生モードを選ぶ（ダイレクト/ステレオ）

本機の音楽専用の2チャンネル再生モードには、2つのモードがあります。お好みに合わせて使用してください。

❑ダイレクトモード

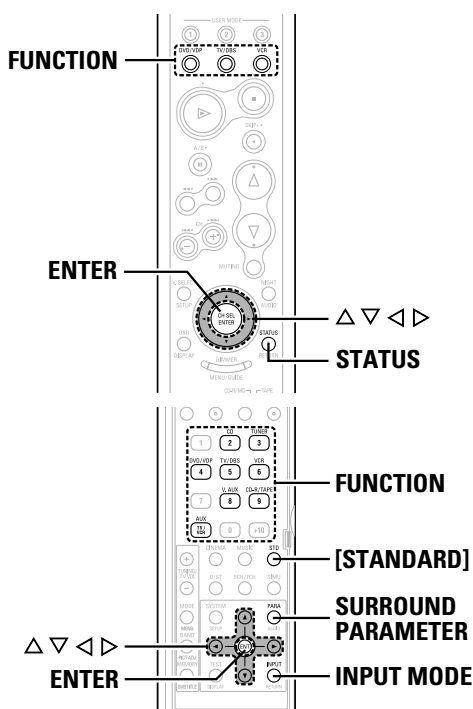
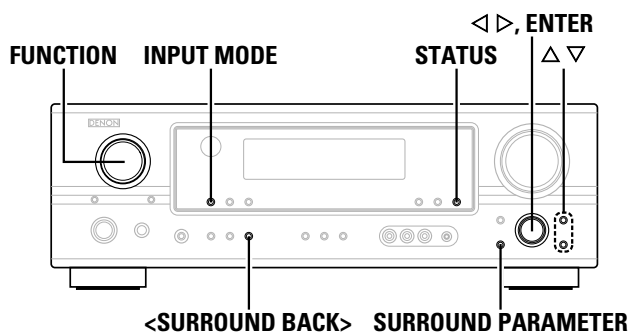
高品位の音質を再生するモードです。
音声信号が音質回路などを通らず、ストレートに伝送します。

[DIRECT/STEREO] で“ DIRECT ”を選ぶ。

DIRECT ←→ STEREO

❑ステレオモード

音質調整をして、自在に音の印象を変化させて楽しむモードです。

[DIRECT/STEREO] で“ STEREO ”を選ぶ。

【操作説明のボタン名について】

< >： 本体のボタン
[ ]： リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

ドルビーデジタル/DTSサラウンドモードを選ぶ（デジタル入力のみ）

1 **FUNCTION でデジタル入力（COAXIALまたはOPTICAL）が設定されている入力ファンクションを選ぶ（☞ 43ページ）。**

2 **INPUT MODE で “ AUTO ” を選ぶ。**

3 **[STANDARD] で “ STANDARD（Dolby/DTS Surround）” を選ぶ。**

4 **DOLBY DIGITAL または dts マークが付いたプログラムソースを再生する。**

● プログラムソースによって “ DIGITAL ” または “ dts ” が点灯します。

5 **SURROUND PARAMETER を押す。**

6 **△ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。**

CINEMA EQ.：
映画の会話が耳ざわりと感じるときに使用し、高域を抑えます。

【有効なソースモード】

・ドルビープロロジックⅡx
・ドルビーデジタル
・DTS NEO:6
・ドルビープロロジック
・DTSサラウンド
・MPEG-2 AAC

D.COMP.：
ダイナミックレンジを圧縮します。“ OFF ”、“ LOW ”（低）、“ MID ”（中）、“ HI ”（高）の4つのモードから選びます。

【有効なソースモード】

・ドルビーデジタル
・DTS（DTSソースでは対応するソフトのみ表示します。）

LFE：
それぞれのソフトを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。

・ドルビーデジタルのソフトを再生する場合：“ 0dB ”
・DTSの映画ソフトを再生する場合：“ 0dB ”
・DTSの音楽ソフトを再生する場合：“ −10dB ”

TONE：
音質を調整します。

※ ダイレクトモード以外のサラウンドモードで設定できます。
※ サラウンドモードごとに設定できます。（ドルビー/DTS/AACサラウンドモードは一緒に調整します。）

SB CH OUT：
再生モードまたはサラウンドバックチャンネルの再生方法を選びます。

※ **<SURROUND BACK>**でサラウンドバックチャンネルのオン/オフを切り替えることができます。

【マルチチャンネルソースの場合】

● **SB OFF（OFF）**：
再生しません。

● **NON MTRX：**
サラウンドチャンネル信号を再生します。

● **MTRX ON：**
サラウンドチャンネル信号をデジタルマトリックス処理して再生します。

● **ES MTRX：**
DTS信号をデジタルマトリックス処理をして再生します。

● **ES DSCRT：**
DTS-ESディスクリート6.1チャンネルのソースに含まれている信号を再生します。

● **PLⅡx CINEMA：**
ドルビープロロジックⅡxの “ CINEMA ” モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生します。
※ 「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 50ページ）でサラウンドバックスピーカーを “ 2sp ” にしてください。

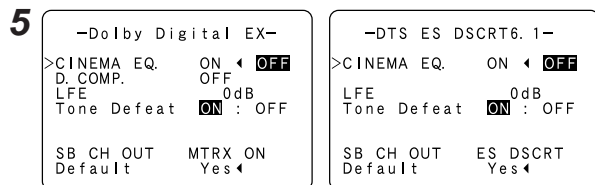
● **PLⅡx MUSIC：**
ドルビープロロジックⅡxの “ MUSIC ” モードでデコードし、サラウンドバック信号を再生します。
※ 「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 50ページ）でサラウンドバックスピーカーを “ 1sp ” または “ 2sp ” にしてください。

【2チャンネルソースの場合】

- **OFF**：再生しません。
- **ON**： サラウンドチャンネル信号を再生します。

7 ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。

5

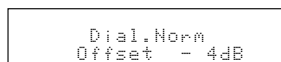
```
 -Dolby Digital EX-
>CINEMA EQ.    ON ◂ OFF
 D. COMP.      OFF
 LFE              0dB
 Tone Defeat   ON : OFF

 SB CH OUT    MTRX ON
 Default       Yes◂
```

【例】ドルビーデジタル

【例】DTS

- “ Default Yes ” を選んで ◁ を押すと、すべての設定が初期値になります。

❑ダイアログノーマライゼーション機能について

ドルビーデジタルソースの再生中に、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正する機能です。
補正値は、**STATUS** で確認できます。

```
  Dial.Norm
Offset   - 4dB
```

数字は、標準レベルに補正した場合の補正値です。

AACサラウンドモードを選ぶ（デジタル入力のみ）

1 FUNCTION でデジタル入力（COAXIALまたはOPTICAL）が設定されている入力ファンクションを選ぶ（☞ 43ページ）。

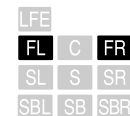
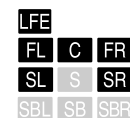
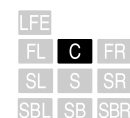
2 INPUT MODE で “ AUTO ” を選ぶ。

3 AACのプログラムソースを再生する。

- “ AAC ” が点灯します。

- AAC放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC出力が “ OFF ” になっていたり、AAC信号をPCM信号に変換する設定となっている場合があります。
  テレビやデジタルチューナーなどの初期設定やセットアップ画面などで、デジタル音声やAAC出力の設定をご確認ください。詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

❑入力信号チャンネル表示について

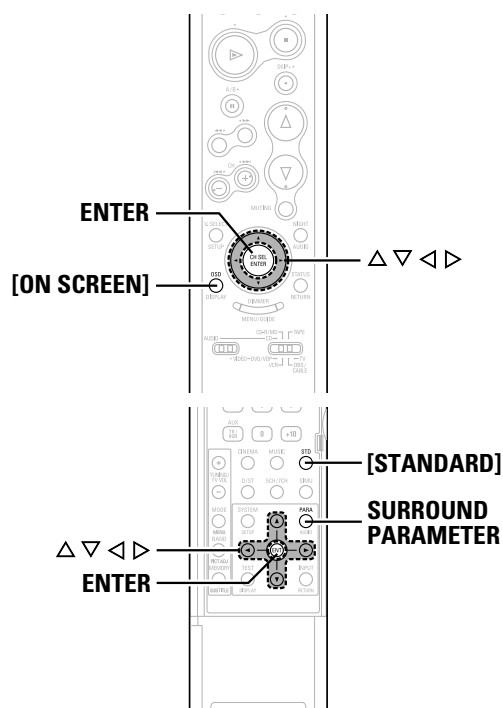
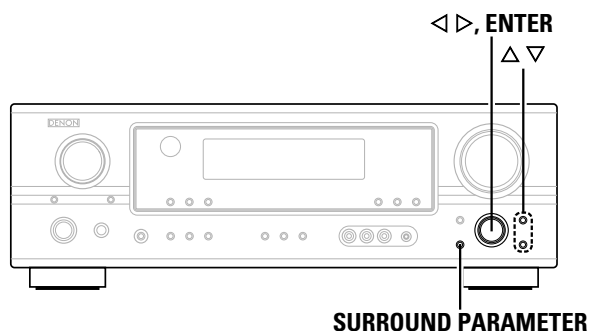
プログラムソースにより、入力信号チャンネル表示が点灯します。

- **2チャンネルソース：**
  [STANDARD] を押すと、“ プロロジックⅡx ” モードと “ DTS NEO:6 ” モードを切り替えることができます。

- **5.1チャンネルソース：**
  [STANDARD] を押すと、5.1チャンネル再生ができます。
  5.1チャンネルで再生しているときは、“ MPEG2 AAC ” を表示します。

- **モノラルソース：**
  [STANDARD] を押すと、“ MPEG2 AAC ” が表示されます。
  音声は、センタースピーカーより出力されます。
  フロントスピーカーで再生したい場合は、サラウンドモード（“ STEREO ” など）を選択してください。

FL C FR

FL C FR

FL C FR

- **二重音声ソース：**
  二重音声の情報があるAACソースを再生する場合は、主音声や副音声などの出力内容を選択できます。
  詳しくは、「バイリンガルモードの設定」（☞ 47、48ページ）をご覧ください。

《基本操作のしかた》

【操作説明のボタン名について】
< >： 本体のボタン
[ ]： リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

ドルビープロロジックⅡx（プロロジックⅡ）モードを選ぶ

アナログ入力およびデジタル入力の2チャンネル信号で、サラウンド再生ができます。
ドルビーサラウンドで録音されたプログラムソースの再生に最適なモードです。

1 ［STANDARD］で“DOLBY PLⅡx”を選ぶ。

DOLBY PLⅡx ←→ DTS NEO:6

2 プログラムソースを再生する。

3 SURROUND PARAMETER を押す。

4 ◁ ▷ で再生モードを選ぶ。

CINEMA：
ドルビーサラウンドで録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。

MUSIC：
ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、さらに音場を調整する各種のオプションパラメーターがあります。

GAME：
ゲームに最適なモードです。2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

PL：
従来のドルビープロロジック再生の互換モードです。

5 △ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。

“MUSIC”モードを選んだとき：

PANORAMA：
サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。

DIMENSION： 【0〜6：初期値 3】
音場イメージの中心を、フロントまたはサラウンド側にシフトします。音場イメージが偏った場合にそれらを補正します。

CENTER WIDTH： 【0〜7：初期値 3】
センター信号の出力バランスをセンターチャンネルとフロントチャンネルの間で調整することにより、自然な前方の広がりを得ることができます。

6 ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。

（“MUSIC”を選んだとき）

DTS NEO：6モードを選ぶ

アナログ入力およびデジタル入力の2チャンネル信号でサラウンド再生ができます。

1 ［STANDARD］で“ DTS NEO：6 ”を選ぶ。

DOLBY PLIIx ←→ DTS NEO:6

2 プログラムソースを再生する。

3 SURROUND PARAMETER を押す。

4 ◁ ▷ で再生モードを選ぶ。

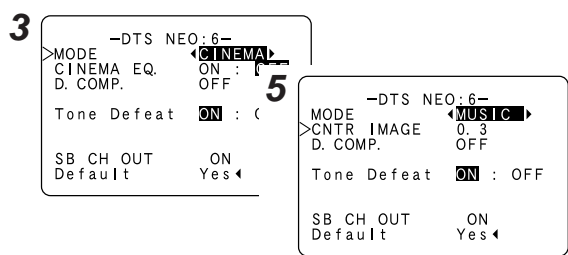
CINEMA：
映画再生に最適なモードです。2チャンネルソースを6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことができます。

MUSIC：
音楽再生に適したモードです。

5 △ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。

“ MUSIC ” モードを選んだとき：

CNTR. IMAGE： 【0.0〜1.0：初期値 0.3】
センターチャンネルの広がりを調整できます。

6 ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。

（“MUSIC”を選んだとき）

入力信号の確認のしかた

1 ［ON SCREEN］を押す。

SIGNAL：	入力信号の種類。
fs：	入力信号のサンプリング周波数。
FORMAT：	入力信号のチャンネル数（フロント/サラウンド/LFEの有無）。ドルビーサラウンドの2チャンネル信号の場合、“ SURROUND ” を表示します。
OFFSET：	ダイアログノーマライゼーションの補正値を表示します。
FLAG：	入力信号がマトリクス処理をされている場合は “ MATRIX ” を、ディスクリート処理をされている場合は “ DISCRETE ” を表示します。

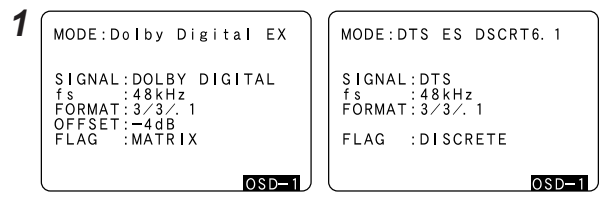
2 さらに［ON SCREEN］を押す。

※ **OSD-1** ：入力信号
OSD-2 ：入出力信号
OSD-3 ：オートサラウンドモード
OSD-4〜6 ：ユーザーモード1〜3

1

```
MODE:Dolby Digital EX

SIGNAL:DOLBY DIGITAL
fs    :48kHz
FORMAT:3/3/.1
OFFSET:−4dB
FLAG  :MATRIX
                 OSD−1
```

【例】ドルビーデジタル

```
MODE:DTS ES DSCRT6.1

SIGNAL:DTS
fs    :48kHz
FORMAT:3/3/.1

FLAG  :DISCRETE
                 OSD−1
```

【例】DTS

- “ OSD-1 ” の “ FLAG ” は、入力信号にフラグの認識信号がない場合は表示しません。
- “ OSD-3 ” は入力モードを “ AUTO ” およびオートサラウンドモードを “ ON ” に設定（☞ 47ページ）した場合に表示します。ANALOGモードおよび外部入力（EXT. IN）モードでは表示しません。

《基本操作のしかた》

サラウンドモードとパラメーター 一覧表

サラウンドモード	チャンネル出力					パラメーター　（　）内は初期値														
														Dolby Digital		PRO LOGIC Ⅱ/Ⅱx MUSIC MODEのみ			NEO:6 MUSIC MODEのみ	EXT. IN のみ
	FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R	SURROUND BACK L/R	SUB-WOOFER	D. COMP *1	LFE *2	SB CH OUT	TONE CONTROL	CINEMA EQ.	MODE	ROOM SIZE	EFFECT LEVEL	NIGHT mode	DELAY TIME	PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH	CENTER IMAGE	SW ATT
DIRECT	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
STEREO	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
EXT. IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	○	○ (0 dB)	○ (注2)	○ (CINEMA)	×	×	○ (OFF)	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ	○	◎	◎	×	◎	○ (OFF)	×	○	○ (0 dB)	○ (注3)	○ (CINEMA)	×	×	○ (OFF)	×	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	×
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	×	○	○ (0 dB)	○ (注2)	○ (CINEMA)	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	○ (0.3)	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○	○ (0 dB)	○ (OFF)	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
5CH/7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○	○ (注1)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○	○ (0 dB)	×	×	○ (Medium)	○ (10)	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	○	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (30 msec)	×	×	×	×	×
VIRTUAL	○	×	×	×	◎	○ (OFF)	○ (0 dB)	×	○ (0 dB)	×	×	×	×	○ (OFF)	×	×	×	×	×	×

○：信号有り
×：信号無し
◎：「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 50ページ）により、ON/OFF可能。

○：　制御可能
×：　制御不可能
注1：BASS +6 dB, TREBLE +4 dB
注2：CINEMAモードのみ
注3：CINEMAまたはPLモードのみ
*1:　ドルビーデジタルおよびDTS信号再生時。
*2:　ドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオおよびスーパーオーディオCD再生時。

○：信号有り
×：信号無し

○：制御可能
×：制御不可能

❑ 入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン	(注)	入力信号																
				DTS				DOLBY DIGITAL					AAC			DVD-AUDIO		
サラウンドモード		ANALOG	リニア PCM	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)	DVD-Audio (multi ch)	DVD-Audio (2ch)	176.4/ 192kHz
STANDARD																		
DTS SURROUND																		
DTS ES DSCRT6.1	*1	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS ES MTRX6.1	*1	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND		×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS 96/24		×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx CINEMA	*2	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + PLIIx MUSIC	*1	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS + NEO:6	*1	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS NEO:6 CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DTS NEO:6 MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY SURROUND																		
DOLBY DIGITAL EX	*1	×	×	×	×	×	×	●	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY DIGITAL+PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	●	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	○	×
AAC																		
AAC + Dolby EX	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×
AAC + PLIIx CINEMA	*2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
AAC + PLIIx MUSIC	*1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
MPEG2 _AAC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	●	×	×	×

● ：初期状態で選ばれるモード
○ ：選択可能なモード
× ：選択不可能なモード

（注） *1：サラウンドバックスピーカーを「None」に設定している場合は、選択できません。
*2：サラウンドバックスピーカーを「1spkr」または「None」に設定している場合は、選択できません。

《基本操作のしかた》

ボタン	(注)	入力信号																
サラウンドモード				DTS				DOLBY DIGITAL					AAC			DVD-AUDIO		
		ANALOG	リニア PCM	DTS ES DSCRT (フラグ有り)	DTS ES MTRX (フラグ有り)	DTS (5.1ch)	DTS 96/24	DOLBY DIGITAL EX (フラグ有り)	DOLBY DIGITAL EX (フラグ無し)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)	DVD-Audio (multi ch)	DVD-Audio (2ch)	176.4/ 192kHz
DIRECT																		
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
DSP SIMULATION																		
5CH/7CH STEREO	*1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
STEREO																		
STEREO		●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●

● ： 初期状態で選ばれるモード
○ ： 選択可能なモード
× ： 選択不可能なモード

（注） *1：サラウンドバックスピーカーを「None」に設定している場合は、" 5CH STEREO " を表示します。

《基本操作のしかた》

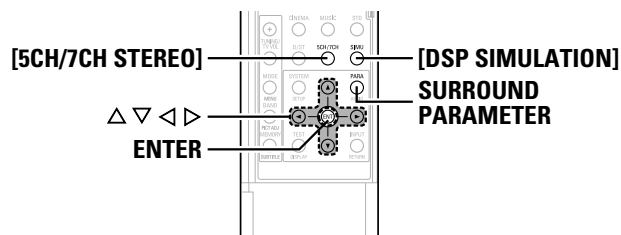
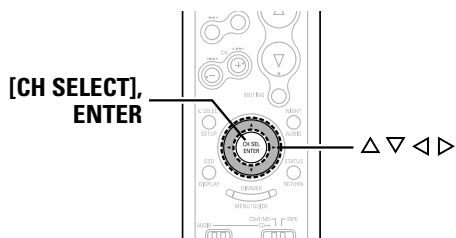
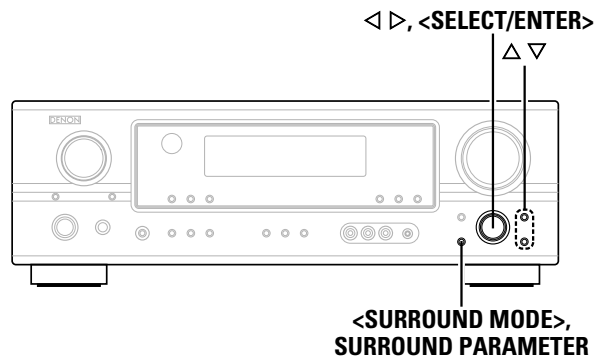
DENONオリジナルサラウンドの使いかた

本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。再生するプログラムソースに合わせて7通りのサラウンドモードの中から選び、さらにパラメーターを調節することで、よりリアルな音場を再現できます。

サラウンドモードの種類と特長

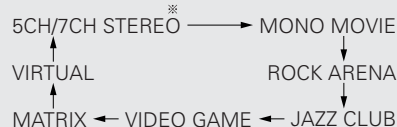
5CH/7CH STEREO（注1）	7つのスピーカーでステレオサウンドを楽しめます。フロントL（R）チャンネル信号がサラウンドおよびサラウンドバックのL（R）チャンネルから、センターチャンネルにはLとRのチャンネルの同相の成分のみをそれぞれ再生します。
MONO MOVIE（注2）	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気を楽しめます。
ROCK ARENA	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しめます。
JAZZ CLUB	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスで、アーティストがすぐそばで演奏するような雰囲気を楽しめます。
VIDEO GAME	ビデオゲームを楽しめます。
MATRIX	ステレオ録音の音楽ソースを、広がり感を強調して楽しめます。
VIRTUAL	フロントスピーカーのみ、またはヘッドホンを使用してサラウンド再生を楽しめます。

注1：“ SB CH OUT ” が “ OFF ” のときは、“ 5CH STEREO ” を表示します。
注2：モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

- 再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
  この場合にはサラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：　本体のボタン
［　　］：　リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

DSPサラウンドシミュレーションモードを選ぶ

❑サラウンドモードとサラウンドパラメーターをリモコンで操作する場合

1 [DSP SIMULATION]を押す。

※ 5CH/7CH STEREOモードは、**[5CH/7CH STEREO]** を押しても選ぶことができます。

2 SURROUND PARAMETER を押す。

3 △ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。

SB CH OUT：
- **OFF**：サラウンドバックチャンネルを再生しません。
- **ON**：　サラウンドバックチャンネルを再生します。

ROOM SIZE：
再現する音場空間の大きさのイメージを調整します。
“ small ”、“ med.s ”、“ medium ”、“ med.l ”、“ large ” の5つのパラメーターがあります。
※ 再生する部屋の大きさを表わすものではありません。

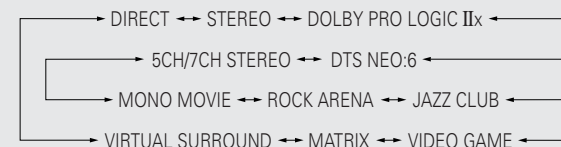
EFFECT LEVEL：
サラウンド効果の大きさを調整します。

DELAY TIME：　【MATRIXモードのみ】
“ 0ms ” 〜 “ 110ms ” の範囲内で調整します。

4 ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。

- “ Default Yes ” を選んで ◁ を押すと、すべての設定は初期値になります。

❑サラウンドモードとサラウンドパラメーターを本体で操作する場合

1 ＜SELECT/ENTER＞ でサラウンドモードを選ぶ。

※ サラウンドパラメーターおよびトーンコントロールを調整中にサラウンドモードを選ぶ場合は、**＜SURROUND MODE＞** を押してから **＜SELECT/ENTER＞** を操作してください。

2 「サラウンドモードとサラウンドパラメーターをリモコンで操作する場合」の操作2〜4をおこなう。

音質を調節する

低音および高音をお好みに合わせて調節します。

❏ 音質を調節する場合

1 **SURROUND PARAMETER を押す。**

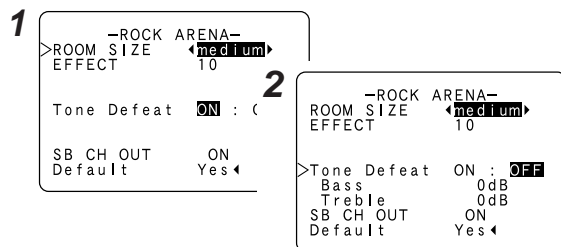
2 **△ ▽ で " Tone Defeat " を選ぶ。**

※ ダイレクトモードの場合、" TONE " は選べません。

3 **▷ で " OFF " を選ぶ。**

4 **△ ▽ で " Bass " または " Treble " を選び、◁ ▷ でレベルを設定する。**

※ －10dB～＋10dBの範囲内で調節できます。

5 **ENTER または SURROUND PARAMETER を押す。**

❏ 音質を調節しない場合

「音質を調節する」の操作3で " Tone Defeat " を " ON " にする。

スピーカーの音量を調節する

1 **［CH SELECT］を押す。**

2 **△▽ または［CH SELECT］で、スピーカーを選ぶ。**

※ 押すたびに設定できるスピーカーが切り替わります。

3 **［◁ ▷］で音量を調節する。**

※ －12.0dB～＋12.0dBの範囲内で調節できます。

フェーダー機能を使う

本機能は、フロント側とリア側のそれぞれの音量をまとめて調節（減衰）します。

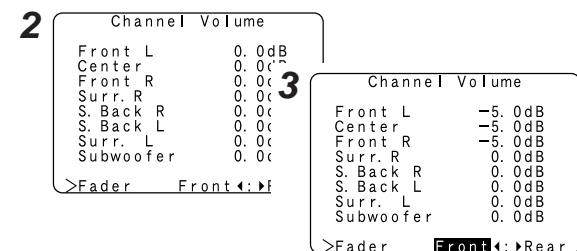
1 **［CH SELECT］を押す。**

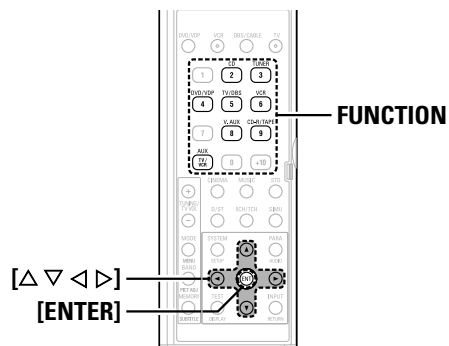
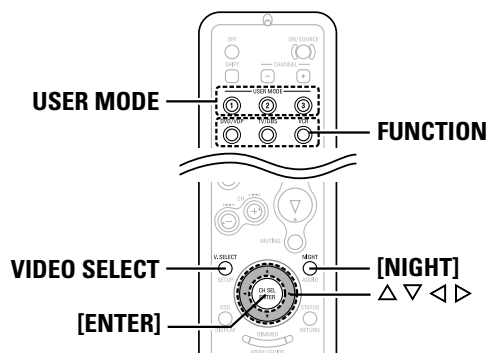
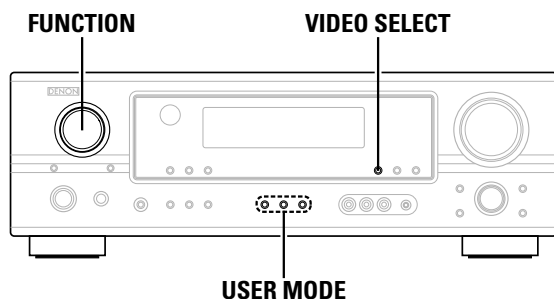
2 **△ ▽ または［CH SELECT］で " Fader " を選ぶ。**

3 **フロント側の音量をまとめて減衰したい場合は［◁］、リア側を減衰したい場合は［▷］を押す。**

※ サブウーハーは、フェーダーが機能しません。

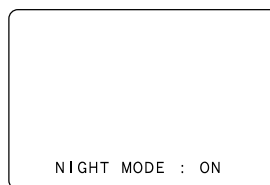
※ 一番小さいスピーカーの音量が、－12.0dBになるまで調節できます。

FUNCTION
VIDEO SELECT
USER MODE

【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：本体のボタン
［　　］：リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

応用操作のしかた

ナイトモードの使いかた

ドルビーデジタルソースの再生中に、ナイトモードが設定できます。夜または低い音量で聴くときに、セリフなどが聴きやすくなります。

[NIGHT］を押す。

NIGHT MODE ： ON

● 解除するときは、もう一度 **[NIGHT］**を押してください。
● ナイトモードが“ ON ”のとき、サラウンドパラメーターの“ D. COMP ”は選べません。

ユーザーモード機能について

本機は、入力ファンクション、入力モードおよびサラウンドモードの設定状態を3パターンまで記憶して、使用したいときにいつでも呼び出すことができます。

❑ 記憶のしかた

1 **「入力ファンクション」、「入力モード」および「サラウンドモード」を記憶させたい状態に設定する。**

2 **“ Memory ” が表示されるまで、USER MODE を押す。**

❑ 呼び出しかた

呼び出したい設定が記憶されている USER MODE を押す。

今聴いている音に好きな映像を組み合わせる（ビデオセレクト機能）

好きな映像が出るまで VIDEO SELECT を押す。

● 解除する場合は、**VIDEO SELECT** を押して“ SOURCE ”を選んでください。
● ビデオセレクト機能で選択されたビデオ系入力は、各入力機器ごとに記憶します。

パーソナルメモリープラス機能について

最後に選ばれたサラウンドモードや入力モードの設定を入力機器ごとに記憶します。

※ サラウンドパラメーター、音質調節、ルームイコライザーの設定および各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

iPod®の再生のしかた

iPod用コントロールドック（ASD-1R、別売り）を使用することにより、iPodの音楽を再生することができます。また、本体およびリモコンのボタンからも操作することができます。専用のiPod用コントロールドックについては、お買い上げの販売店または当社のお客様相談窓口にお問い合わせください。

Made for iPod

iPodは米国およびその他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標または登録商標です。

※ iPodは、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

1 **本機とiPodをiPod用コントロールドック（ASD-1R）を使って接続する（☞ 21ページ）。**

2 **「iPodの入力の設定」（☞ 44ページ）で入力端子を割り当てる。**

3 **FUNCTION で操作2で割り当てたファンクションを選ぶ。**

- 本機のディスプレイに“ Remote iPod ”を表示します。

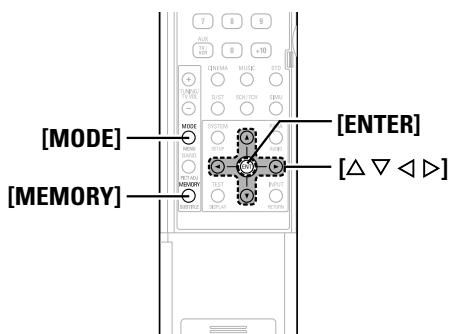
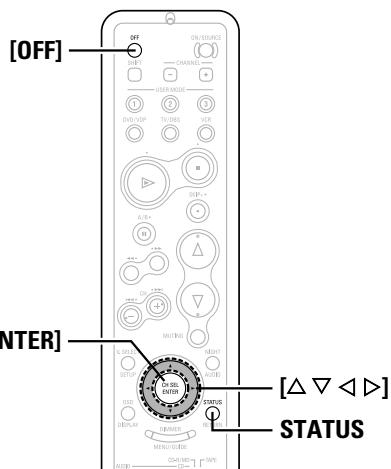
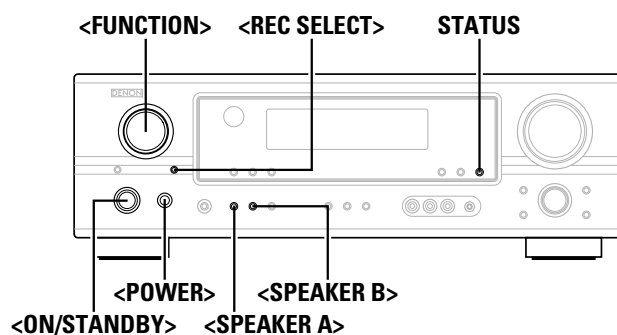
Remote iPod

※ 上記が表示されない場合は、iPodが正しく接続されていない可能性があります。接続と設定を確認してください。

4 **iPodの画面を見ながら［△ ▽ ◁ ▷］と［ENTER］で操作する。**

- 本機とiPodの接続には、iPod用コントロールドック（ASD-1R、別売り）をご使用ください。

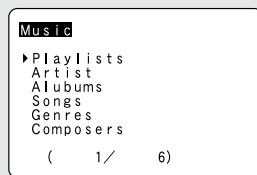
ご注意

- iPodを本機と接続して使用しているときに、iPodのデータが万一消失あるいは損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- iPodの種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。

【操作説明のボタン名について】

＜　　＞：　本体のボタン
［　　］：　リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

Browseモードで音楽を聴く

1 ［MODE］を2秒以上押し、“ Remote ” モードから “ Browse ” モードに切り替える。

● 本機のディスプレイに “ Browse iPod ” を表示します。

(iPodの画面)

2 ［△ ▽］で再生したい音楽ファイルを選び、［ENTER］を押す。

※ ［◁］を押すと、ミュージックメニュー画面に戻ります。

3 ［ENTER］を押す。

● 再生をはじめます。

一時停止：
再生中に［ENTER］を押す。
もう一度押すと再開します。

マニュアルサーチ：
再生中に［△ ▽］を押し続ける。
● △：早戻し
● ▽：早送り

トラックサーチ：
再生中に［△ ▽］を押す。
● △：前の曲の頭出し
● ▽：次の曲の頭出し

停止：
再生中に［ENTER］を2秒以上押す。

リピート再生：
［MODE］を押す。
［MODE］を押すたびに下記のように切り替わります。
● **RPT One**：1曲リピート
● **RPT All**：全曲リピート

シャッフル再生：
［MEMORY］を押す。
［MEMORY］を押すたびに下記のように切り替わります。
● **SFL Songs**：曲ごとのシャッフル
● **SFL Albums**：アルバムごとのシャッフル

※ “ Remote ” モード時は［△ ▽ ◁ ▷］および［ENTER］のみ使用できます。

● 再生中に **STATUS** を押すたびに、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えることができます。
● iPodのソフトウェアのバージョンによっては、本機で操作できない場合があります。最新バージョンのソフトウェアを使用してください。なお、最新バージョンのソフトウェアについての情報は、アップルコンピュータ株式会社のウェブサイトをご覧ください。
● iPodを再生中にオンスクリーンディスプレイを表示させたくない場合は、「オンスクリーンディスプレイ（OSD）の設定」（☞ 46ページ）で “ Function/Mode　Status ” を “ OFF ” にしてください。
● 本機はフォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することができます。半角の英数文字を64文字まで表示できます。対応していない文字は “ .（ピリオド）” に置き換えて表示します。

静止画像やビデオを見る（スライドショー/ビデオ機能があるiPodのみ）

iPodの写真データやビデオをテレビで見ることができます。

1 ［MODE］を2秒以上押し、“ Browse ” モードから “ Remote ” モードに切り替える。
- 本機のディスプレイに“ Remote iPod ”を表示します。

2 iPodの画面を見ながら［△ ▽］を押して“ Photos ” または “ Video ” を選び、表示したいデータのスライドショーが再生するまで、［ENTER］を押す。
- iPodの写真データやビデオをテレビに映し出します。

- iPodの写真データやビデオをテレビに映すにはiPodの “ スライドショー設定 ” または “ ビデオ設定 ” の “ テレビ出力 ” を “ オン ” に設定する必要があります。詳しくはiPodの取扱説明書をご覧ください。

iPodのはずしかた

＜ON/STANDBY＞ または［OFF］で本機の電源をスタンバイ状態にする。

※ iPod入力を割り当てていないファンクションに切り替えてから、iPodを外すこともできます。

録音または録画のしかた（REC OUTモード）

1 ＜REC SELECT＞ を押して、ディスプレイに “ RECOUT ” を表示させる。

2 ＜FUNCTION＞ で録音または録画するファンクションを選ぶ。
- “ REC ” および選んだソース表示が点灯します。

3 録音または録画状態にする。

※ 操作のしかたは、録音または録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

- 解除する場合は、**<REC SELECT>** を押し、ファンクションを “ RECOUT SOURCE ” にしてください。
- 現在選ばれているソースがデジタル出力端子（OPT-2）から出力されます。
REC SELECTモードで選ばれているソースと、デジタル出力端子（OPT-2）からの出力は連動しません。

ご注意

デジタル信号は、オーディオ/ビデオ出力（CD-R/TAPE、VCR）端子からは出力しません。

メモリー機能について

■ ラストファンクションメモリー

本機は、スタンバイにする直前の各種設定状態を記憶します。再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定状態になります。

■ バックアップメモリー

電源を切ったり、電源コードを抜いた場合でも、各種設定状態を約1週間保持します。

マイコンを初期化する

ディスプレイ表示が正常でない場合や、本体またはリモコンの操作ができない場合は、下記の操作でマイコンを初期化してください。

1 <POWER> で電源を切る。

2 <SPEAKER A> と <SPEAKER B> を同時に押しながら、<POWER> を押す。

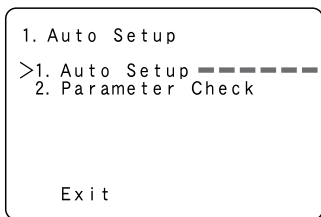
3 ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅するのを確認したら、2つのボタンから指を離す。
- マイコンを初期化します。

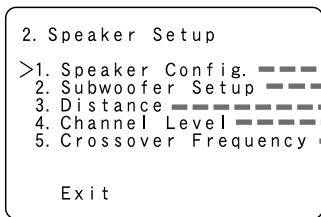
- 操作3の状態にならない場合は、もう一度操作1からやり直してください。
- マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンの設定状態がすべて初期設定に戻ります。

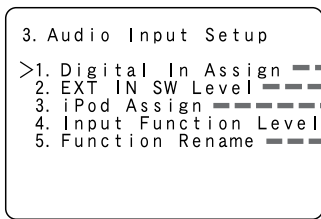
《応用操作のしかた》

より詳細なセットアップのしかた１

システムセットアップの内容と初期設定について

1. オートセットアップ

	内　容		初期設定	参照ページ
1	**Auto Setup**	スピーカーおよび部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動で設定します。	—	14～16

2. スピーカーの設定

	内　容		初期設定	参照ページ
1	**Speaker Configuration**	サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を設定します。	Front Sp.: Large Center Sp.: Small Subwoofer: Yes Surround Sp.: Small Surround Back Sp.: Small / 2sp	50
2	**Subwoofer Setup**	重低音域信号を再生するサブウーハーの再生方法を選びます。	LFE (Normal)	51
3	**Distance**	リスニングポジションの距離に応じて各スピーカーやサブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。	Front L & R: 3.6 m Center: 3.6 m Subwoofer: 3.6 m Surround L & R: 3.0 m Surround Back: 3.0 m	51
4	**Channel Level**	各スピーカーからのテストトーンの音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量を設定します。	Front L: 0 dB Front R: 0 dB Center: 0 dB Surround L: 0 dB Surround R: 0 dB Surround Back L: 0 dB Surround Back R: 0 dB Subwoofer: 0 dB	51、52
5	**Crossover Frequency**	各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。	80 Hz	52

3. 音声入力に関する設定

	内　容		初期設定	参照ページ
1	**Digital In Assignment**	各デジタル入力端子に対して、入力ファンクションを割り当てます。	デジタル入力 / 入力ファンクション: COAX 1: CD COAX 2: AUX OPT 1: DVD / VDP OPT 2: TV / DBS	43
2	**EXT. IN Subwoofer Level**	外部入力（EXT. IN）のサブウーハー（SW）端子に接続されたアナログ信号の再生レベルを設定します。	SW Level = +15 dB	44
3	**iPod Assignment**	iPod用コントロールドック（ASD-1R、別売り）からのオーディオまたは（および）ビデオ信号を、本機の任意の入力端子に割り当てて再生できます。	iPod Function = OFF	44
4	**Input Function Level**	入力機器間で異なる再生レベルを個別に補正します。	CD: 0 dB TUNER: 0 dB AUX: 0 dB CDR / TAPE: 0 dB DVD / VDP: 0 dB TV / DBS: 0 dB VCR: 0 dB V. AUX: 0 dB	44
5	**Function Rename**	表示される入力ファンクション名を変更できます。	CD TUNER AUX CDR / TAPE DVD / VDP TV / DBS VCR V. AUX	45

《より詳細なセットアップのしかた１》

4. 映像に関する設定

```
4. Video Setup

>1. Component In Assign
 2. Video Convert
 3. Audio Delay
 4. On Screen Display
```

	内　容			初期設定			参照ページ
1	**Component In Assignment**	各コンポーネントビデオ入力端子に対して、入力ファンクションを割り当てます。	**ビデオ入力**	COMP1	COMP2	COMP3	45
			入力ファンクション	DVD / VDP	TV / DBS	VCR	
2	**Video Convert**	ビデオコンバージョン機能を使用するかどうかを設定します。		ON			45
3	**Audio Delay**	映像信号と音声信号の時間差を調整します。		0 ms			46
4	**On Screen Display**	メニュー画面以外でオンスクリーンディスプレイを表示させるかどうかを設定します。		Function/Mode = ON, Master Volume = ON, Mode = Mode 1			46

5. 音声再生に関する設定

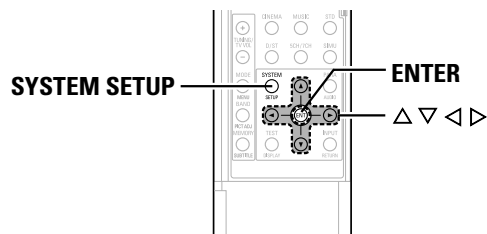
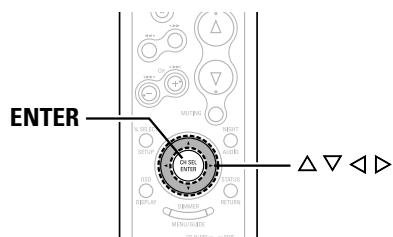
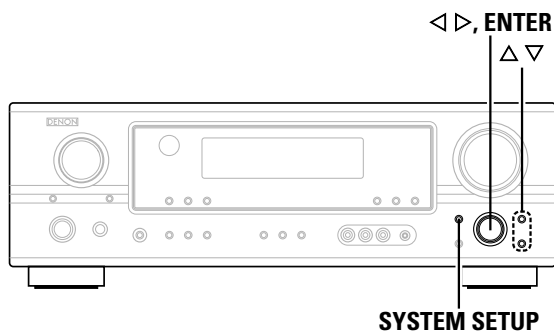
```
5. Advanced Playback

>1. 2ch Direct/Stereo
 2. Auto Surround Mode
 3. Bilingual Mode
```

	内　容		初期設定	参照ページ
1	**2ch Direct / Stereo**	2チャンネルのダイレクトモードおよびステレオモードのみスピーカーの設定を変更する場合に設定します。	Basic	46、47
2	**Auto Surround Mode**	入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶するかどうかを設定します。	ON	47
3	**Bilingual Mode**	ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、二重音声の出力内容を設定します。	MAIN	47、48

6. その他の設定

```
6. Option Setup

>1. Power Amp Assign
 2. Volume Control
 3. Setup Lock
```

	内　容		初期設定	参照ページ
1	**Power Amp Assignment**	サラウンドバックのパワーアンプをフロントチャンネル（“ Front A ” または “ Front B）のバイアンプ再生用に割り当てて使用できます。	S. Back	48
2	**Volume Control**	音量レベルを設定します。	Vol.Limit = OFF, P. On Lev. = LAST, Mute Lev. = FULL	49
3	**Setup Lock**	システムセットアップの設定を変更できないように、ロックするかどうかを設定します。	Setup Lock = OFF	49

《より詳細なセットアップのしかた１》

リスニング環境を満足させるために、いろいろな設定を希望に合わせておこなってください。
本製品のシステムメニューの内容と初期設定については、40、41ページを参照してください。

システムセットアップメニューの進めかた

1 **SYSTEM SETUP を押す。**
●“ System Setup ” メニューを表示します。

2 **△ ▽ で設定したい項目を選び、ENTER を押す。**

3 **さらに △ ▽ で設定したい項目を選び、ENTER を押す。**

4 **設定を変更するとき：**
△ ▽ で変更したい項目を選び、◁ ▷ で設定を変更する。

※“ Default Yes ” を選び、◁ ボタンを押すと、初期設定に戻ります。

5 **ENTER で新しい項目を設定する。**

6 **SYSTEM SETUP で “ System Setup ” メニューまたはメイン画面に戻る。**

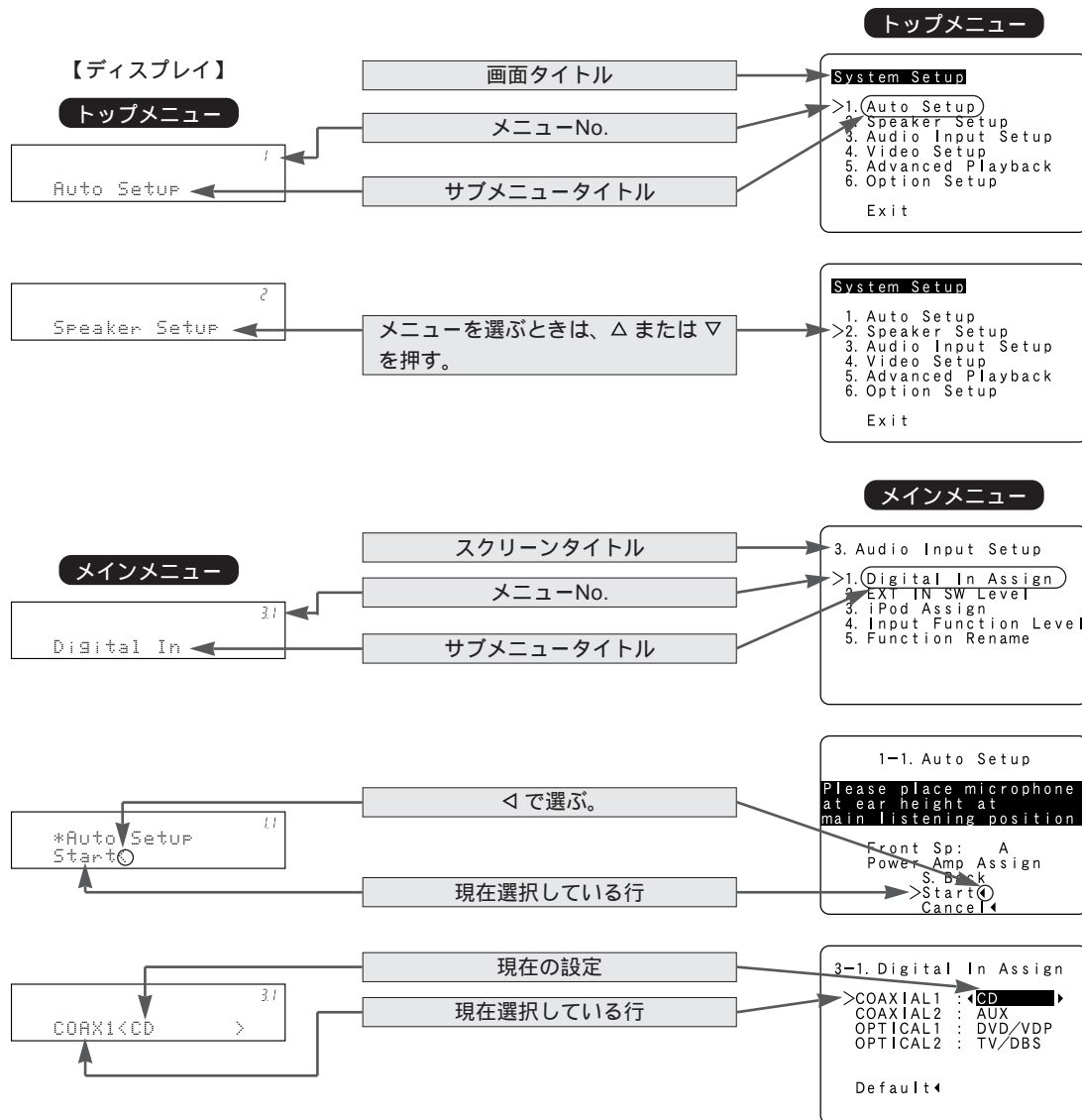
【操作説明のボタン名について】
＜　　＞：　本体のボタン
［　　］：　リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

オンスクリーンディスプレイとディスプレイ表示について

本機には、分かりやすいオンスクリーンディスプレイ機能の他に、設定内容を確認できるディスプレイを装備しています。
各種設定や操作のときにお使いください。
いくつかの代表的なオンスクリーンディスプレイとディスプレイの表示例を下記に示します。

【ディスプレイ】

トップメニュー

画面タイトル
メニューNo.
サブメニュータイトル
Auto Setup
System Setup
>1. Auto Setup
2. Speaker Setup
3. Audio Input Setup
4. Video Setup
5. Advanced Playback
6. Option Setup
Exit

音声入力に関する設定

デジタル入力の設定

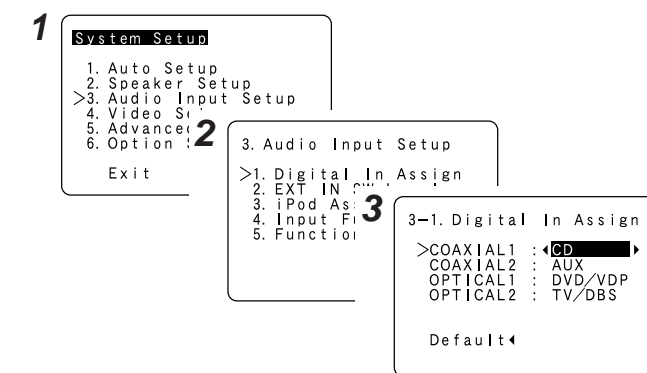
各デジタル入力端子に対して、入力ファンクションを割り当てます。

1 **△▽ で “ Audio Input Setup ” を選び、ENTER を押す。**

2 **△ ▽で “ Digital In Assign ” を選び、ENTER を押す。**

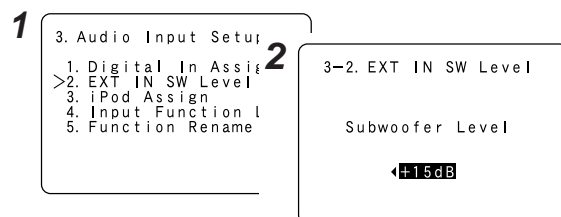
3 **△ ▽ で入力端子を選び、◁ ▷ で設定する。**

CD, TUNER, AUX, DVD/VDP, TV/DBS, VCR, V.AUX, CD-R/TAPE：
本機の入力端子に接続された機器に合わせて各ファンクションの割り当てをおこないます。

4 **ENTER を押す。**

● “ iPod Assign ” で割り当てているファンクションには、デジタル入力の設定ができません。

外部入力サブウーハーレベルの設定

外部入力（EXT. IN）のサブウーハー（SW）端子に接続されたアナログ信号の再生レベルを設定します。

1 △ ▽ で " EXT IN SW Level " を選び、ENTER を押す。

2 ◁ ▷ で設定する。

3 ENTER を押す。

iPodの入力の設定

iPod用コントロールドック（ASD-1R、別売り）からのオーディオまたは（および）ビデオ信号を、本機の任意の入力端子に割り当てて再生できます。

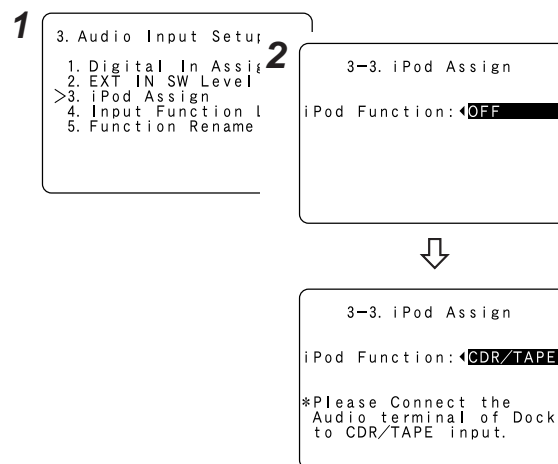
1 △ ▽ で " iPod Assign " を選び、ENTER を押す。

2 ◁ ▷ で設定する。

OFF：
工場出荷時はこの状態に設定してあります。

CD, TUNER, AUX, CDR/TAPE：
割り当てたファンクションの音声入力端子と接続できます。

DVD/VDP, TV/DBS, VCR, V.AUX：
割り当てたファンクションの音声入力端子および映像入力端子と接続できます。

3 ENTER を押す。

（" CDR/TAPE " 選択時）

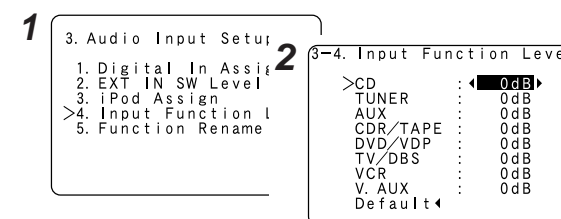
入力機器間の再生レベルの補正

入力機器間で異なる再生レベルを個別に補正します。

1 △ ▽ で " Input Function Lev. " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で入力ファンクションを選び、◁ ▷ で設定する。

※ 音量は、－12dB～＋12dBの範囲内で設定できます。

3 ENTER を押す。

- 設定後、各入力機器間の再生レベルが同じになっているかを確認してください。

入力ファンクション名の変更

入力ファンクション名を変更できます。

1 △ ▽ で " Function Rename " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で入力ファンクションを選び、◁ ▷ で設定する。

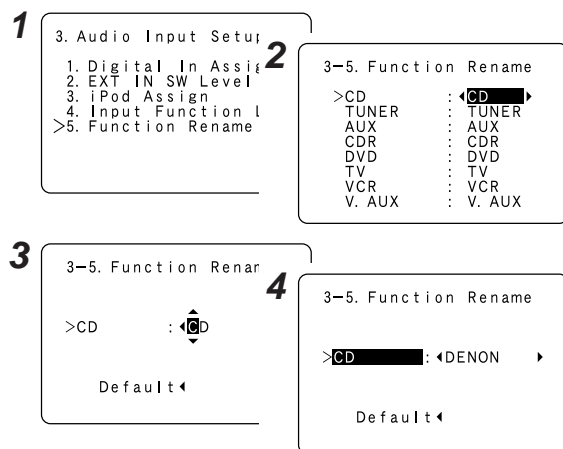
3 ◁ ▷ で変更したい位置にカーソル（■）を合わせ、△ ▽ で文字を選ぶ。

※ 最大8文字まで入力できます。
入力できる文字は下記の通りです。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
! " # % & ' ( ) ＊ + , – . / : ; < = > ? @ [\ ] (スペース)

4 操作3を繰り返して入力ファンクション名を入力する。

※ 入力ファンクション名を戻したい場合は、
① ◁ ▷ で入力ファンクション名を反転表示させ、▽ を押す。
② " Default Yes " を選び、◁ を押す。

5 入力が終わったら ENTER を押す。

映像に関する設定

コンポーネントビデオ入力の設定

各コンポーネントビデオ入力端子に対して、入力ファンクションを割り当てます。

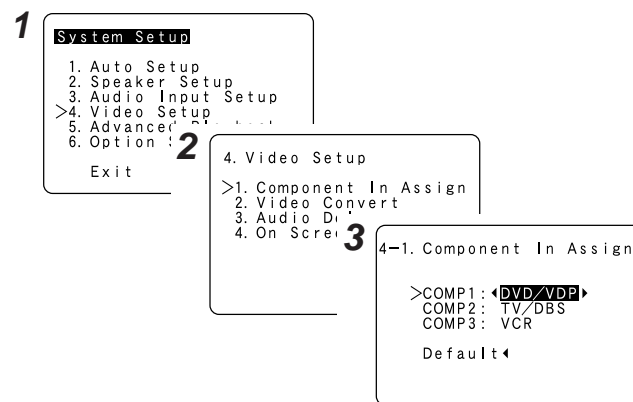
1 △ ▽ で " Video Setup " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で " Component In Assign " を選び、ENTER を押す。

3 △ ▽ で入力端子を選び、◁ ▷ で設定する。

DVD/VDP, TV/DBS, VCR, V.AUX：
" COMP1 "、" COMP2 " または " COMP3 " に入力ファンクションを割り当てます。

4 ENTER を押す。

✎

● " iPod Assign " で割り当てているファンクションには、コンポーネントビデオ入力の設定ができません。

ビデオコンバートの設定

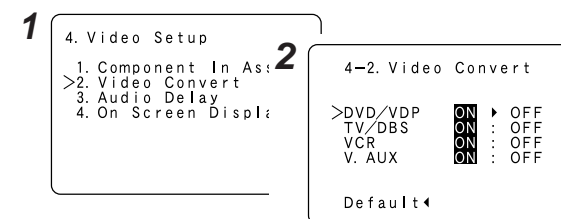
ビデオコンバージョン機能を使用するかどうかを設定します。

1 △ ▽ で " Video Convert " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で入力ファンクションを選び、◁ ▷ で設定する。

ON, OFF：
ビデオコンバージョン機能を使用するときは " ON "、使用しないときは " OFF " を選びます。

3 ENTER を押す。

✎

● コンポーネントビデオ信号からSビデオおよびビデオ信号へのダウンコンバートはできません。
コンポーネントビデオモニター出力端子を使用しない場合は、Sビデオまたはビデオ入力端子で再生機器と接続してください（☞ 18ページ）。
● ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。このようなときは、コンバートモードを " OFF " にしてください。
● ビデオコンバージョン機能を使用した場合、映像信号に付加される文字放送などの情報が出力されない場合があります。このようなときは、コンバートモードを " OFF " にしてください。

オーディオディレイの調整

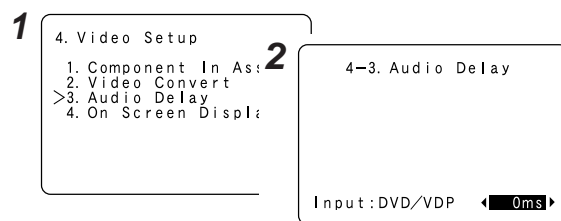
映像信号と音声信号の時間差を調整します。

1 △ ▽ で " Audio Delay " を選び、ENTER を押す。

2 ◁ ▷ で設定する。

0ms～200ms：時間差を調整します。

※ 映画ソースなどで俳優の口の動きと声の出るタイミングなどを見て調整します。

3 ENTER を押す。

- 初期状態でデジタル入力がない場合は、表示しません。
- コンポーネントビデオ信号に対して本設定をおこなう場合は、時間差を設定してオンスクリーンディスプレイをオフした後、コンポーネント映像と音声のタイミングが合っているかを確認してください。
- 外部入力モード時およびアナログ入力時のダイレクトモードとステレオモード（Front Sp. = Large、TONE DEFEAT = ON設定時）での再生中、オーディオディレイは効きません。

オンスクリーンディスプレイの設定

メニュー画面以外でオンスクリーンディスプレイを表示させるかどうかを設定します。

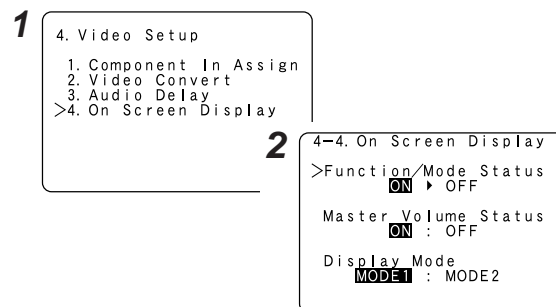
1 △ ▽ で " On Screen Display " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。

Function/Mode Status：
- **ON, OFF：**
  オンスクリーンディスプレイを表示させるときは " ON "、表示させないときは " OFF " を選びます。

Master Volume Status：
- **ON, OFF：**
  オンスクリーンディスプレイを表示させるときは " ON "、表示させないときは " OFF " を選びます。

Display Mode：
- **MODE1：**
  ちらつきの防止をおこないません。
- **MODE2：**
  映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止します。
  MODE1にてオンスクリーンディスプレイが表示されない場合は、本モードを使用してください。

3 ENTER を押す。

音声再生に関する設定

2チャンネルのダイレクトモードおよびステレオモードの設定

2チャンネルのダイレクトモードおよびステレオモードのみスピーカーの設定を変更する場合に設定します。

1 △ ▽ で " Advanced Playback " を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で " 2ch Direct/Stereo " を選び、ENTER を押す。

3 ◁ ▷ で " Basic " または " Custom " を選ぶ。

Basic：
" Speaker Setup " の設定内容を使用します。

Custom：
2チャンネルのダイレクトおよびステレオモードのときのスピーカーの設定内容を変更することができます。

4 △ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。

※ 設定内容の詳細については（☞ 50～52ページ）をご覧ください。

5 ENTER を押す。

3
5−1. 2ch Direct/Stereo
> Setting: Basic
Front SP. :−Large
Subwoofer :−Yes
SW Mode :− LFE
Crossover :− 80Hz
Distance FL:− 3. 6m
FR:− 3. 6m
SW:− 3. 6m

4
5−1. 2ch Direct/Stereo
Setting: Custom
>Front SP. : Large
Subwoofer : Yes
SW Mode : LFE
Crossover : 80Hz
Distance FL: 3. 6m
FR: 3. 6m
SW:− 3. 6m −

オートサラウンドモードの設定

入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶するかどうかを設定します。
下記の3種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合は、記憶したサラウンドモードで自動的に再生します。

① アナログおよびPCMの2チャンネル信号【STEREO】
② ドルビーデジタルやDTSまたは他のマルチチャンネル信号などの2チャンネル信号【DOLBY PLⅡx Cinema】
③ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号【DOLBY/DTS SURROUND】

※【　】内は初期設定。

1 **△ ▽ で“ Auto Surround Mode ”を選び、ENTER を押す。**

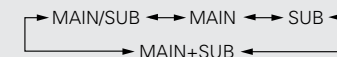
2 **◁ ▷ で設定する。**

3 **ENTER を押す。**

バイリンガルモードの設定

ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、二重音声の出力内容を設定します。

1 **△ ▽ で“ Bilingual Mode ”を選び、ENTER を押す。**

2 **◁ ▷ で設定する。**

MAIN：
MAIN（主）音声のみ出力します。

SUB：
SUB（副）音声のみ出力します。

MAIN/SUB：
MAIN（主）音声は左チャンネルから、SUB（副）音声は右チャンネルから出力します。

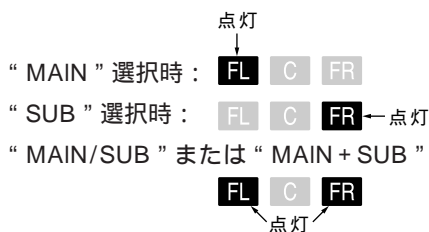
MAIN+SUB：
MAIN（主）音声とSUB（副）音声をミックスして出力します。

3 **ENTER を押す。**

- バイリンガルモードは、AACソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効です。
- 二重音声の情報があるソースを録音する場合は、プレーヤーまたはチューナー側で録音したい音声に切り替えてください。

❑ AACソースまたはドルビーデジタルソースで二重音声の情報を検出した場合

点灯

- "MAIN"選択時：FL C FR
- "SUB"選択時：FL C FR ←点灯
- "MAIN/SUB"または"MAIN＋SUB"選択時：

※ DTSソースで二重音声を検出した場合は、バイリンガルモードの設定に関わらず、"FL"と"FR"が点灯します。

※ "MPEG2　AAC"モードの場合、音声はセンタースピーカーより出力されます。フロントスピーカーで再生したい場合は、"STEREO"モードなどを選択してください。

その他の設定のしかた

パワーアンプの割り当ての変更

サラウンドバックのパワーアンプをフロントチャンネル（"Front　A"または"Front　B"）のバイアンプ再生用に割り当てて使用できます。

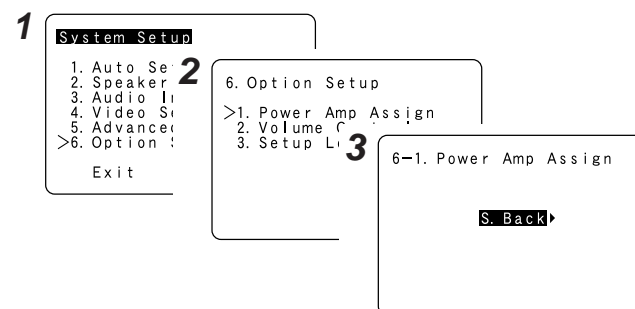
1 △▽で"Option Setup"を選び、ENTERを押す。

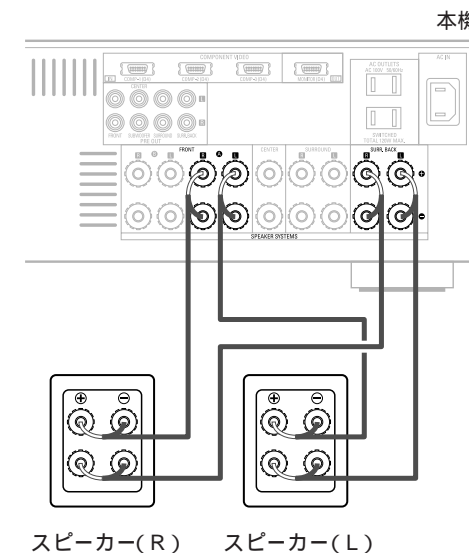
2 △▽で"Power Amp Assign"を選び、ENTERを押す。

3 ◁▷で設定する。

S.Back：
パワーアンプの割り当てをおこなわずに、サラウンドバックスピーカーとして使用します。

Front A, Front B：
フロントチャンネル（Front AまたはFront B）をサラウンドバックスピーカーから出力して、バイアンプで再生します。

4 ENTERを押す。

フロントスピーカーのバイアンプ接続について

本機とバイアンプ対応のスピーカーを接続することにより、フルレンジのシステムに比べてレンジの広いダイナミックなサウンドを再生できます。
接続の際は、スピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。

ご注意

バイアンプで接続するときは、スピーカーに付属されている短絡板を必ず外してください。

音量の設定

音量レベルを設定します。

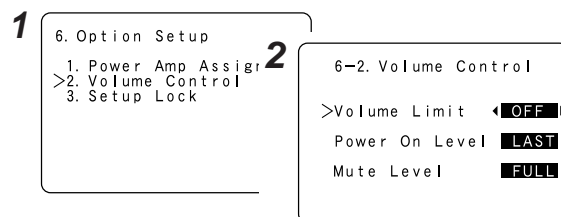
1 △ ▽ で“ Volume Control ”を選び、ENTER を押す。

2 △ ▽ で項目を選び、◁ ▷ で設定する。

Volume Limit：
音量の上限値を設定します。
- **OFF：**
  音量の上限値を設定しないときに選びます。
  +18dBまで音量を上げることができます。
- **－20dB, －10dB, 0dB：**
  設定されたレベルまで音量を上げることができます。

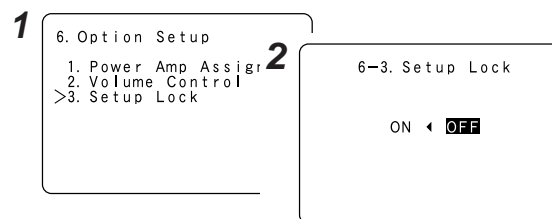
Power On Level：
電源オン時の音量を設定します。
－80dB〜＋18dBの範囲内で設定できます。
- **LAST：**
  前回使用していたときの音量が記憶され、電源オン時に設定します。
- **- - -（消音）：**
  電源オン時は消音になります。

Mute Level：
消音時の音量の減衰量を設定します。
- **FULL：**
  音声出力を完全に消音します。
- **－20dB, －40dB：**
  現在の再生レベルから20dＢまたは40dＢ減衰して再生します。

3 ENTER を押す。

セットアップ内容の保護

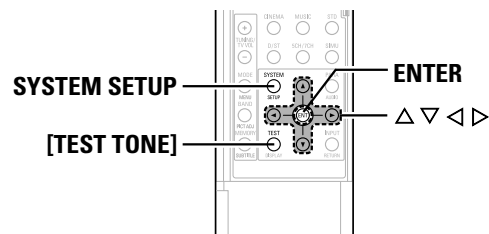
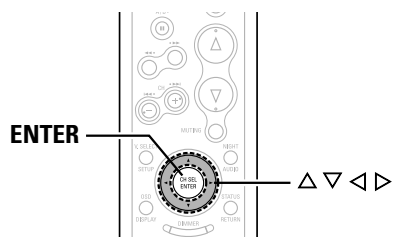
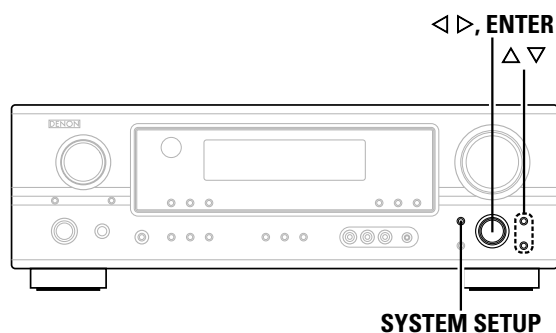
システムセットアップの設定を変更できないように、ロックするかどうかを設定します。

1 △ ▽ で“ Setup Lock ”を選び、ENTER を押す。

2 ◁ で“ ON ”を選び、ENTER を押す。

- “ Setup Lock ” を “ ON ” にすると、下記設定が変更できなくなります。
  ・システムセットアップの設定
  ・サラウンドパラメーターの設定値
  ・トーンコントロールの設定値
  ・チャンネルレベルの設定値（テストトーンを含む）
- 本設定に関連するボタンが押されると、“ SETUP LOCKED ” を表示します。
- 設定を解除する場合：
  ① **SYSTEM SETUP** で “ Setup Lock ” 画面を表示させる。
  ② ▷ で “ OFF ” に設定し、**ENTER** を押す。

《より詳細なセットアップのしかた１》

【操作説明のボタン名について】
< >： 本体のボタン
[ ] ： リモコンのボタン
ボタン名のみ：本体とリモコンのボタン

より詳細なセットアップのしかた２

スピーカーに関する設定のしかた

スピーカーを手動で設定する場合、またはオートセットアップで設定された内容を変更する場合におこなってください。

スピーカーの種類・有り無しの設定

サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を設定します。

1 **△ ▽ で“ Speaker Setup ”を選び、ENTER を押す。**

2 **△ ▽ で“ Speaker Config. ”を選び、ENTER を押す。**

3 **△ ▽ でスピーカーを選び、◁ ▷ で設定する。**

Large：
低域再生能力が十分な大型スピーカーを接続しているときに選びます。

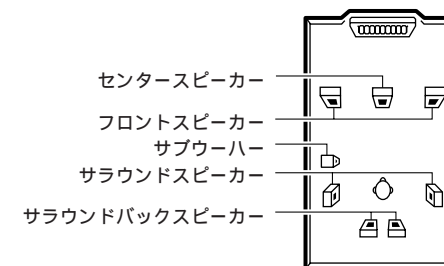
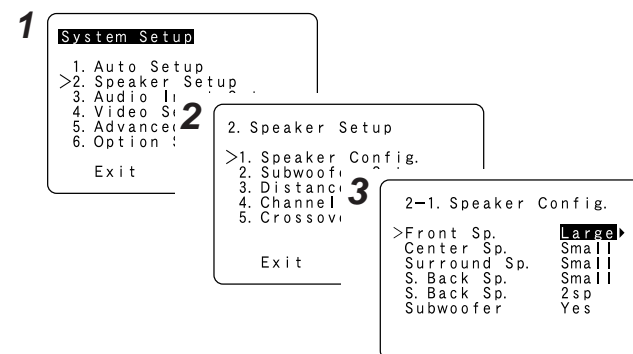
Small：
低域再生能力が十分でない小型スピーカーを接続しているときに選びます。

None：
スピーカーを接続していないときに選びます。

Yes/No：
サブウーハーを接続しているときは“ Yes ”、接続していないときは“ No ”を選びます。

2sp/1sp：
サラウンドバックスピーカーの数を選びます。

※ サブウーハーの低域再生能力が十分な場合、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの設定を“ Small ”にしても良好な音場再生ができます。
※ フロントスピーカーを“ Small ”に設定すると、自動的にサブウーハーを“ Yes ”に設定します。また、サブウーハーを“ No ”に設定すると、自動的にフロントスピーカーを“ Large ”に設定します。

4 **ENTER を押す。**

● “ Large ”と“ Small ”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに「クロスオーバー周波数」（☞ 52ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で“ Small ”に設定した場合と“ Large ”に設定した場合の音を比較した上で選んでください。

サブウーハーモードの設定

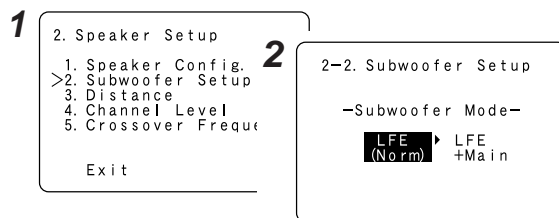
重低音域信号を再生するサブウーハーの再生方法を選びます。

1 △▽で“ Subwoofer Setup ”を選び、ENTER を押す。

2 ◁▷ で設定する。

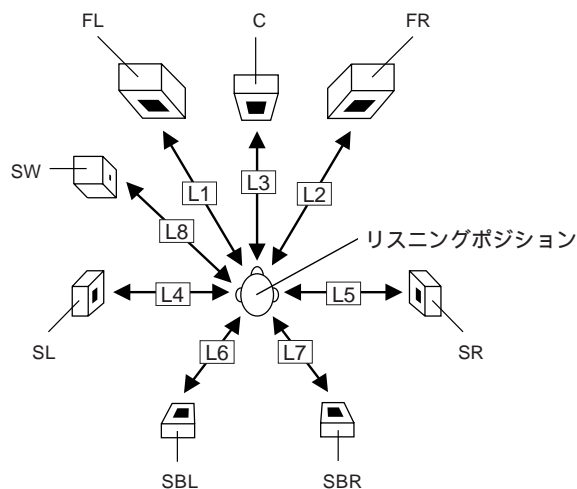
LFE（Normal）：
“ Large ”に指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルからのみ再生します。
サブウーハーから再生される低音域は、LFE信号と“ Small ”に設定されたチャンネルの低音域のみとなります。

LFE＋Main：
“ Large ”に指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルとサブウーハーチャンネルから同時に再生します。

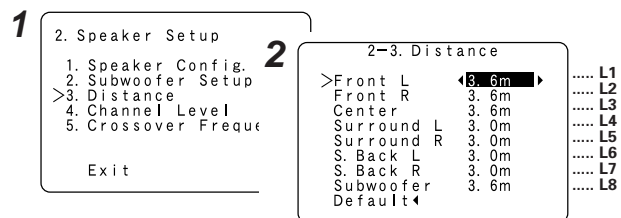
3 ENTER を押す。

- サブウーハーモードの設定は、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 50ページ）でサブウーハーを“ Yes ”に設定した場合に有効です。
- 常にサブウーハーチャンネルから低音域信号を再生したい場合は、“ LFE＋Main ”再生モードを選んでください。
- 音楽ソースや映画ソースを再生してみて、量感のある低音域が得られる方の再生モードを選んでください。

スピーカーの距離の設定

リスニングポジションと各スピーカーの距離に応じて、各スピーカーやサブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。

準備： リスニングポジションと各スピーカーとの距離（下図のL1〜L8）を測定してください。

1 △▽で“ Distance ”を選び、ENTER を押す。

2 △▽でスピーカーを選び、◁▷ で設定する。

3 ENTER を押す。

- ボタンを押すたびに数値が0.1m単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選んでください。
- 各スピーカーに設定した距離の差は、6.0m以下でなければなりません。

チャンネルレベルの設定

各スピーカーからのテストトーンの音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量を設定します。

1 △▽で“ Channel Level ”を選び、ENTER を押す。

2 ◁▷ で設定する。

Auto：
各スピーカーより自動的に出力されるテストトーンを聞きながらレベルを調整します。

Manual：
テストトーンを出力するスピーカーを手動で切り替えて、調整します。

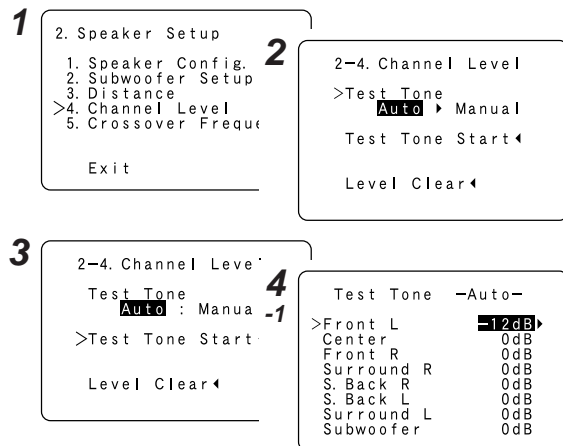
3 △▽で“ Test Tone Start ”を選び、◁で“ Yes ”を選ぶ。

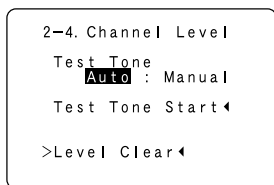
4-1 “ Auto ”モードを選んだ場合：
◁▷ で音量を調整する。

※ 下記の順序でテストトーンを自動的に出力します。

※ 音量は、−12dB〜＋12dBの範囲内で調整できます。

4-2 **“ Manual ” モードを選んだ場合：**
△ ▽ でスピーカーを選び、◁ ▷ で音量を調整する。

5 **ENTER を押す。**

- 設定を取り消す場合は、▽ で “ Level Clear ” を選び、◁ で “ Yes ” を選んでください。

```
2–4. Channel Level
 Test Tone
  Auto : Manual
 Test Tone Start
>Level Clear
```

- チャンネルレベルを設定後、再生モード別にチャンネルレベルを調節する場合は、35ページの操作をおこなってください。

❑ リモコンによるテストトーン調整のしかた

リモコンによるテストトーンの調整は “ Auto ” モードのみでSTANDARD（ドルビー/DTSサラウンド）モード時に有効です。調整したレベルは各サラウンドモードに自動的に記憶します。

1 **［TEST TONE］を押す。**
- テストトーンを各スピーカーより出力します。

2 **◁ ▷ で音量を調整する。**

3 **［TEST TONE］を押す。**

クロスオーバー周波数の設定

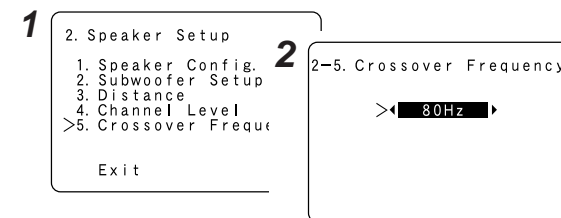
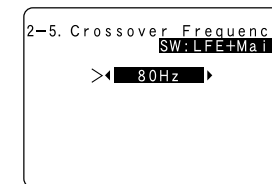
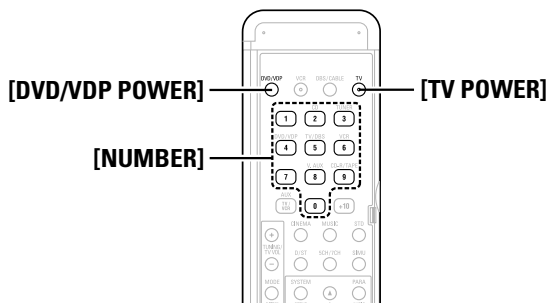
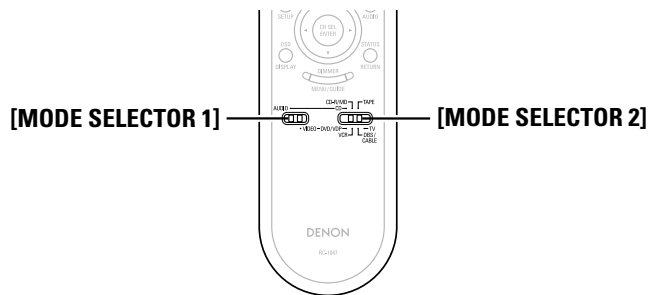
各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。

“ Small ” に設定されたスピーカーは、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力され、カットされた低音域はサブウーハーまたは “ Large ” に設定されているスピーカーより出力します。

1 **△ ▽ で “ Crossover Frequency ” を選び、ENTER を押す。**

2 **◁ ▷ で設定する。**

40, 60, 80, 90, 100, 110, 120, 150, 200, 250Hz：
お手持ちのスピーカーの低音域の再生能力に合わせて選びます。

3 **ENTER を押す。**

- クロスオーバー周波数モードの設定は、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ 50ページ）でサブウーハーを “ Yes ” または “ Small ” に設定したスピーカーがある場合のみ有効です。
- 「サブウーハーモードの設定」（☞ 51ページ）で “ LFE＋Main ” 再生モードに設定されている場合、画面右上に “ SW：LFE＋Main ” を表示します。

- 一般的なスピーカーをご使用の場合は、“ 80Hz ” にしてください。また、小型スピーカーをご使用の場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。

リモコン操作のしかた

DENON製オーディオ機器を操作する

1 **［MODE SELECTOR 1］を“ AUDIO ”に切り替える。**

2 **［MODE SELECTOR 2］を操作したい機器（CD、CD-R/MDまたはTAPE）に切り替える。**

3 **オーディオ機器を操作する。**

※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

プリセットメモリーをおこなう

- 付属のリモコンにプリセットメモリーすると、各社の機器の操作ができるようになります。
- 機種によっては操作できない場合や、機器が正常に動作しない場合があります。

1 **［MODE SELECTOR 1］を“ AUDIO ”または“ VIDEO ”に切り替える。**

※ **［MODE SELECTOR 1］**は次のように切り替えてください。
AUDIO：CD、TAPEまたはCD-R/MDを操作する場合。
VIDEO：DVD/VDP、DBS/CABLE、VCRまたはTVを操作する場合。

2 **［MODE SELECTOR 2］をメモリーしたい機器に切り替える。**

3 **［DVD/VDP POWER］と［TV POWER］を同時に押す。**
- 送信表示が点滅します。

4 **プリセットコード表（☞ 巻末）を参照して、メモリーする機器のメーカーの番号（3桁）を入力する。**

5 **続けて他の機器のメモリーをおこなう場合：操作1〜4をくり返しおこなう。**

- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。

ご注意

CD-R/MD、DVD/VDPおよびDBS/CABLEは、各々どちらか一方の機器しかプリセットメモリーできません。

プリセットメモリーした機器を操作する

1 **［MODE SELECTOR 1］を“ AUDIO ”または“ VIDEO ”に切り替える。**

2 **［MODE SELECTOR 2］を操作したい機器に切り替える。**

3 **機器を操作する。**

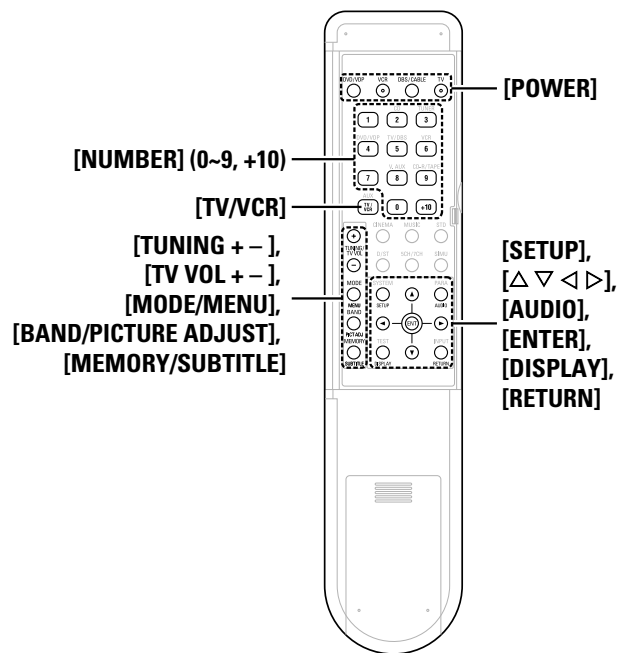
※ 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
※ 機種によっては操作できないものがあります。

❑ 機器ごとのボタンのはたらき

《リモコン操作のしかた》

【 表　面 】

操作機器	CDプレーヤー	CDレコーダー	MDレコーダー	テープデッキ	DVDプレーヤー	ビデオディスクプレーヤー	ビデオデッキ	衛星チューナー	ケーブルテレビ	テレビ（モニター）
MODE SELECTOR 1	AUDIO				VIDEO					
MODE SELECTOR 2	CD	CD-R / MD		TAPE	DVD / VDP		VCR	DBS / CABLE		TV
OFF	–	–	–	–	電源オフ	–	–	–	–	–
ON / SOURCE	–	–	–	–	電源オン	電源オン/スタンバイ	電源オン/スタンバイ	電源オン/スタンバイ	電源オン/スタンバイ	電源オン/スタンバイ
SHIFT	メモリーブロック切り替え	メモリーブロック切り替え	メモリーブロック切り替え	メモリーブロック切り替え	–	–	–	–	–	–
CHANNEL –	プリセットチャンネル選択	プリセットチャンネル選択	プリセットチャンネル選択	プリセットチャンネル選択	チャンネル切り替え–	チャンネル切り替え–	チャンネル切り替え–	チャンネル切り替え–	チャンネル切り替え–	チャンネル切り替え–
CHANNEL +	プリセットチャンネル選択	プリセットチャンネル選択	プリセットチャンネル選択	プリセットチャンネル選択	チャンネル切り替え+	チャンネル切り替え+	チャンネル切り替え+	チャンネル切り替え+	チャンネル切り替え+	チャンネル切り替え+
►	再生	再生	再生	再生	再生	再生	再生	パンチスルー	パンチスルー	パンチスルー
■	停止	停止	停止	停止	停止	停止	停止			
II, A/B	一時停止	一時停止	一時停止	A/B切り替え	一時停止	一時停止	一時停止			
◄, DISC SKIP +	ディスクスキップ+	–	–	リバース再生	ディスクスキップ	–	–			
◄◄	サーチ（早戻し）	サーチ（早戻し）	サーチ（早戻し）	巻き戻し	サーチ（早戻し）	サーチ（早戻し）	サーチ（早戻し）			
►►	サーチ（早送り）	サーチ（早送り）	サーチ（早送り）	早送り	サーチ（早送り）	サーチ（早送り）	サーチ（早送り）			
I◄◄, VCR CH –	スキップ（逆方向）	スキップ（逆方向）	スキップ（逆方向）	–	スキップ（逆方向）	スキップ（逆方向）	チャンネル切り替え–			
►►I, VCR CH +	スキップ（正方向）	スキップ（正方向）	スキップ（正方向）	–	スキップ（正方向）	スキップ（正方向）	チャンネル切り替え+			
SETUP	–	–	–	–	セットアップ	–	–	–	–	–
△ ▽ ◁ ▷	–	–	–	–	カーソル操作	–	–	カーソル操作	カーソル操作	カーソル操作
AUDIO	–	–	–	–	音声切り替え	–	–	–	–	–
ENTER	–	–	–	–	設定の確定	–	–	設定の確定	設定の確定	設定の確定
DISPLAY	–	–	–	–	ディスプレイ切り替え	–	–	ディスプレイ切り替え	ディスプレイ切り替え	ディスプレイ切り替え
RETURN	–	–	–	–	リターン	–	–	リターン	リターン	リターン
MENU	–	–	–	–	メニュー呼び出し	–	–	メニュー呼び出し	メニュー呼び出し	メニュー呼び出し

《リモコン操作のしかた》

【 裏　面 】

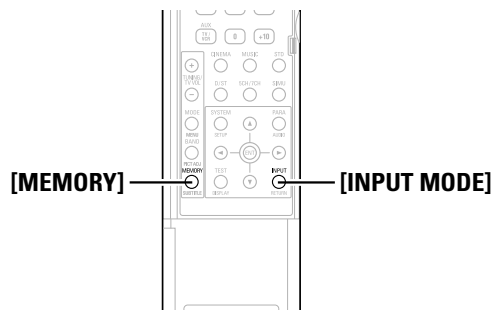
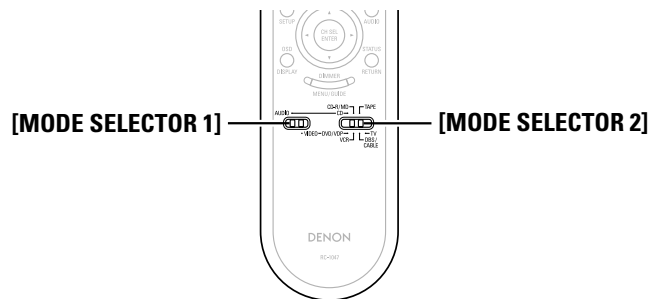
操作機器	CDプレーヤー	CDレコーダー	MDレコーダー	テープデッキ	DVDプレーヤー	ビデオディスクプレーヤー	ビデオデッキ	衛星チューナー	ケーブルテレビ	テレビ（モニター）
MODE SELECTOR 1	AUDIO				VIDEO					
MODE SELECTOR 2	CD	CD-R / MD		TAPE	DVD / VDP		VCR	DBS / CABLE		TV
POWER	–	–	–	–	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ	電源オン/オフ
NUMBER (0 ~ 9, +10)	–	–	–	–	数字入力/選曲	数字入力/選曲	–	チャンネル	チャンネル	チャンネル
TV/ VCR	–	–	–	–	入力切り替え	入力切り替え	入力切り替え	入力切り替え	入力切り替え	入力切り替え
TUNING + / TV VOL +	チューニング	チューニング	チューニング	チューニング	音量調節＋	音量調節＋	音量調節＋	音量調節＋	音量調節＋	音量調節＋
TUNING – / TV VOL –	チューニング	チューニング	チューニング	チューニング	音量調節−	音量調節−	音量調節−	音量調節−	音量調節−	音量調節−
MODE / MENU	自動/手動切り替え	自動/手動切り替え	自動/手動切り替え	自動/手動切り替え	メニュー呼び出し	–	–	メニュー呼び出し	メニュー呼び出し	メニュー呼び出し
SETUP	–	–	–	–	セットアップ	–	–	–	–	–
△ ▽ ◁ ▷	–	–	–	–	カーソル操作	–	–	カーソル操作	カーソル操作	カーソル操作
AUDIO	–	–	–	–	音声	–	–	–	–	–
BAND / PICTURE ADJUST	AM/FM切り替え	AM/FM切り替え	AM/FM切り替え	AM/FM切り替え	画質調整	–	–	–	–	–
ENTER	–	–	–	–	設定の確定	–	–	設定の確定	設定の確定	設定の確定
MEMORY / SUBTITLE	プリセットメモリー	プリセットメモリー	プリセットメモリー	プリセットメモリー	サブタイトル	–	–	–	–	–
DISPLAY	–	–	–	–	ディスプレイ切り替え	–	–	ディスプレイ切り替え	ディスプレイ切り替え	ディスプレイ切り替え
RETURN	–	–	–	–	リターン	–	–	リターン	リターン	リターン
初期設定（プリセットコード）	DENON (111)	DENON (111)	–	DENON (111)	DENON (111)	–	HITACHI (108)	–	ABC (007)	HITACHI (134)
該当する特記事項	①	①		①	①, ②		①	①, ③		①, ③

【特記事項】

① それぞれのモードには、一つの機器しかプリセットメモリーすることができません。また、新しいコードをプリセットすると、前のコードは自動的に消去されます。

② DVDのリモコンボタンは、メーカーによって機能名が異なる場合がありますので、あらかじめご確認ください。

③ テレビと衛星チューナーまたはケーブルテレビには、CD、CD-R/MD、TAPE、VCR、DVD/VDPのいずれかのボタンを割り当てることができます（「パンチスルーについて」（☞ 56ページ））。

《リモコン操作のしかた》

パンチスルー機能を設定する

パンチスルーは、**[MODE SELECTOR 2]** が “ DBS/CABLE ” または “ TV ” の位置でもCD、CD-R/MD、TAPE、DVD/VDPまたはVCRの再生（▶）、停止（■）、一時停止（❚❚）、早送り（▶▶）、巻き戻し（◀◀）およびサーチ（❙◀◀ ▶▶❙）を操作できる機能です。

※ お買い上げ時は、“ 設定なし ” に設定されています。

1 **［MODE SELECTOR 1］を “ VIDEO ” に切り替える。**

2 **［MODE SELECTOR 2］をパンチスルーさせたい機器（DBS/CABLEまたはTV）に切り替える。**

3 **［MEMORY］と［INPUT MODE］を同時に押す。**
- 送信表示が点滅します。

4 **下表を参照して、パンチスルーしたい機器に対応する番号を入力する。**

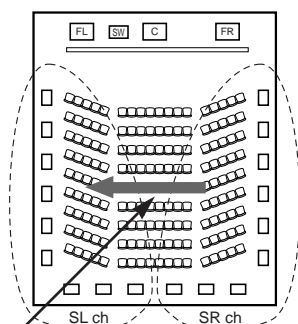
パンチスルーしたい機器	番号
CD	1
TAPE	2
CD-R/MD	3
DVD/VDP	4
VCR	5
設定なし	0

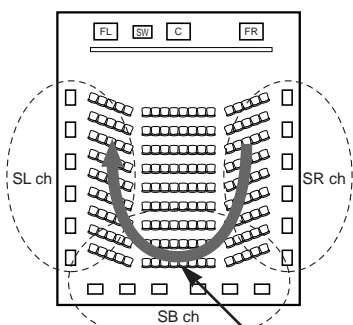
その他について

スピーカーについて

サラウンドバックスピーカーについて

5.1チャンネルシステムにサラウンドバックスピーカーを追加することにより、真後ろへの定位を容易に実現できます。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

5.1chシステムによる定位・音像の変化

SR→SLと移動する音像の動き

6.1chシステムによる定位・音像の変化

SR→SB→SLと移動する音像の動き

また、6.1チャンネルで録音されたソースだけでなく、従来の2〜5.1チャンネルソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。

❑ サラウンドバックスピーカーの本数について

2本のスピーカーを使用することをおすすめします。
特にダイポール特性のスピーカーを使用する場合は、必ず2本使用してください。

❑ サラウンドバックスピーカーを使用する場合の サラウンドL、Rチャンネルの設置について

サラウンドL、Rチャンネルのスピーカーをやや前寄りに設置することをおすすめします。

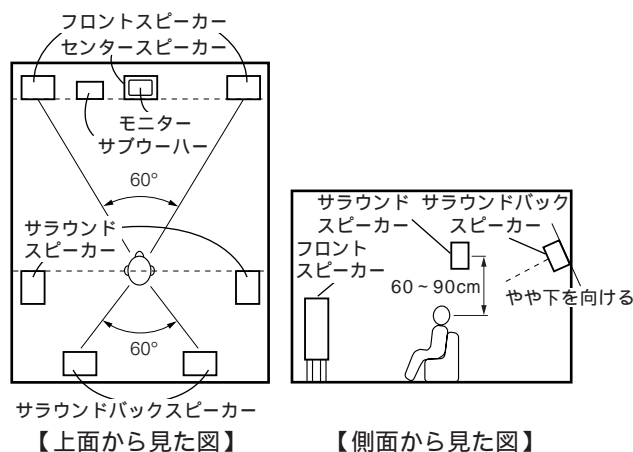
スピーカーの配置例

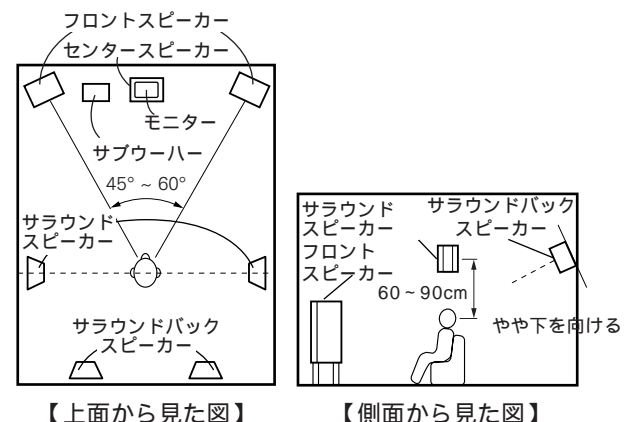
次にスピーカーの配置例をご紹介します。これらを参考に、お手持ちのスピーカーを種類や用途に合わせて配置してください。

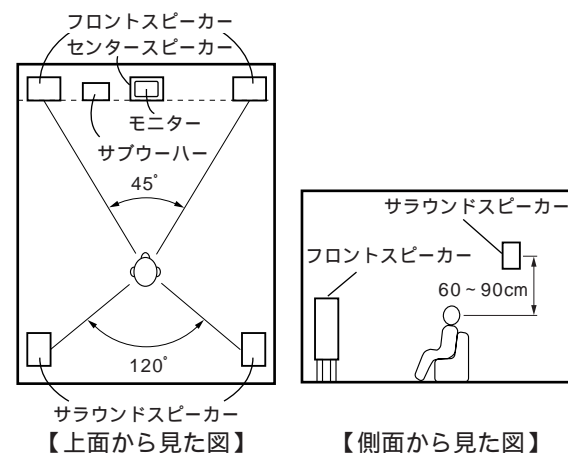
【1】サラウンドバックスピーカーを使用する場合

① 主に映画再生をおこなう場合

ご使用になるサラウンドスピーカーがシングルウェイまたは2ウェイスピーカーの場合におすすめします。

【上面から見た図】 **【側面から見た図】**

② 映画再生用または音楽再生用のサラウンドスピーカーを使用する場合

【上面から見た図】 **【側面から見た図】**

【2】サラウンドバックスピーカーを使用しない場合

【上面から見た図】 **【側面から見た図】**

サラウンドについて

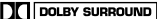
本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンドについて

【1】ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント3チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド2チャンネル（SL、SR)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。
AVルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

【2】ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CDのような通常の音楽は5チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性20〜20kHz以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

【3】ドルビープロロジックIIx

ドルビープロロジックIIxは、ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大7.1チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した「ミュージック」モードと映画再生に適した「シネマ」モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な「ゲーム」モードがあります。

❑ ドルビーサラウンド録音されたソースについて

ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。
ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro LogicおよびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

DTSデジタルサラウンドについて

DTSデジタルサラウンドは、米国のデジタル・シアター・システムズ社により開発されたデジタルサラウンドフォーマットです。
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルです。
メディアに記録する際の音声データの圧縮率がドルビーデジタルに比べて低く、デコードする際の情報量が多くなるので、より厚みのあるクリアな高音質再生ができます。

本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンス契約に基づき製造されています。
US Pat. No. 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535、その他、国外特許および特許出願物。“ DTS ”“ DTS-ES ”“ Neo:6 ” および “ DTS 96/24 ” はデジタル・シアター・システムズ社の商標です。1996, 2003 Digital Theater Systems, Inc. 版権所有。

DTS-ES™について

DTS-ESは、デジタル・シアター・システムズ社により開発された新しいサラウンドフォーマットです。
従来の5.1チャンネルにサラウンドバック（SB）チャンネルを加えることにより、音像や定位感をもたらすことができます。

DTS-ES™ Discrete6.1（ディスクリート6.1）：
SBチャンネルを含めた6.1チャンネルすべてが独立したチャンネルとして記録される最新のフォーマットです。各チャンネルが独立しているため、自由なサウンドデザインができます。

DTS-ES™ Matrix6.1（マトリクス6.1）：
SBチャンネルをあらかじめSL、SRチャンネルにマトリクスエンコードして挿入し、再生時にSL、SR、SBの各チャンネルにデコードするフォーマットです。従来の5.1または6.1チャンネルシステムに比べて、より制作者のサウンドデザインに忠実なサラウンド再生ができます。

DTS NEO:6サラウンドについて

2チャンネルソースを6.1チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。
再生する信号ソースの内容に合わせて最適なデコード処理を選択できる、2つのモードがあります。

DTS NEO:6 CINEMA：
映画再生に適したモードです。2チャンネルでも、映画館と同様なサウンドを楽しむことができます。

DTS NEO:6 MUSIC：
音楽再生に適したモードです。音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

DTS-96/24について

DTS 96/24は、デジタル・シアターシステムズ社により開発された新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
サンプリング周波数を引き上げることにより、「サンプリング周波数：96kHz/量子化ビット数：24ビット」の高音質での5.1チャンネル再生ができます。

MPEG2-AACについて

MPEG2-AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG2-AACにより地上デジタル放送やBSデジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画などの臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

❑ MPEG2-AACのスペック（概要）

- **アルゴリズム：** MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scalable Sampling Rate）プロファイル
- **サンプリング周波数：** 8kHzから96kHzまで対応
- **チャンネル数：** 最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- **その他の機能：** LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

❑ 米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

《その他について》

故障かな？と思ったら

❑ 各接続は正しいですか
❑ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❑ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	関連ページ
電源を入れても、ディスプレイが点灯せず、音も出ない。	● 電源コードの差し込みが不完全である。	● 本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。	22
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	● スピーカーケーブル接続が不完全である。	● しっかり接続してください。	12
	● ファンクション切り替えつまみの位置が不適当である。	● 正しい位置に切り替えてください。	23
	● 主音量調節つまみが絞ってある。	● 適当な位置まで回してください。	23
	● ミューティングがかかっている。	● ミューティングを解除してください。	24
	● デジタル信号が入力されていない。	● デジタル信号の入力機器を正しく選んでください。	43
テレビが映らない。	● 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続が不完全である。	● 接続が正しいか確認してください。	13、17〜22
	● テレビの入力設定が違う。	● テレビの入力切り替えを映像入力に接続した端子へ設定してください。	−
	● プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でテレビとの接続がビデオ端子（黄）またはSビデオ端子になっている。	● プログレッシブ映像信号はダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレースの設定にしてください。	−

現　象	原　因	処　置	関連ページ
DTS音声が出ない。	● DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。	● DVDプレーヤーの初期設定をしてください。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。	—
	● DVDプレーヤーがDTS対応になっていない。	● DTS対応のプレーヤーを使用してください。	—
	● 本機の入力設定がアナログになっている。	●“AUTO”または“DTS”にしてください。	23
DVDからVCRにダビングできない。	● ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	● コピーはできません。	—
サブウーハーが鳴らない。	● サブウーハーの電源が入っていない。	● 電源を入れてください。	—
	● サブウーハーの初期設定が“NO”になっている。	● 設定を“YES”にしてください。	50
	● サブウーハーの出力が接続されていない。	● 正しく接続してください。	12、22
	● サブウーハーのチャンネルボリウムの設定が“OFF”になっている。	● サブウーハーのチャンネルボリウムを上げてください。	35
テストトーンが出ない。	● サラウンドモードがSTANDARD（ドルビー/DTSサラウンド）以外のモードになっている。	● STANDARD（ドルビー/DTSサラウンド）モードにしてください。	—
サラウンドスピーカーから音が出ない。	● サラウンドモードがステレオになっている。	● ステレオ以外のモードにしてください。	—
リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。	● 新しい乾電池と交換してください。	7
	● リモコンの距離が離れ過ぎている。	● 近づいて操作してください。	7
	● 本体とリモコンの間に障害物がある。	● 障害物を取り除いてください。	7
	● 操作したいボタン以外のボタンを押している。	● 操作したいボタンを押してください。	—
	● 乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	● 乾電池を正しくセットしてください。	7

現　象	原　因	処　置	関連ページ
AAC表示が点灯しない。	● BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	● デジタル接続にしてください。	19
電源が切れ、電源表示が赤色で点滅している。	● 機器内部の温度上昇により保護回路が働いている。	● 本機を通風状態の良い場所に設置してください。	12
		● 一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから電源を入れ直してください。	12
	● スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が本機のリアパネルに接触し、保護回路が働いている。	● すべてのスピーカーケーブルの接続を確認してください。	12
	● 本機が故障している。	● 電源を切り、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口に連絡してください。	12
センタースピーカーからしか音が出ない。	● テレビやAM放送などのモノラル音源をドルビー/DTSサラウンドモードで再生している。	● モノラル音源を再生する場合には、ドルビー/DTSサラウンドモード以外のサラウンドモードを選んでください。	33、34
ディスプレイが“DOLBY DIGITAL”の表示にならない。	● DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	● DVDプレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。	—

《その他について》

主な仕様

❏オーディオ部

● **パワーアンプ部**

定格出力：

フロント（A、B）：	80W + 80W （負荷8Ω、20Hz〜20kHz T.H.D 0.08%） 135W + 135W （負荷6Ω、JEITA）
センター：	80W （負荷8Ω、20Hz〜20kHz T.H.D 0.08%） 135W （負荷6Ω、JEITA）
サラウンド：	80W + 80W （負荷8Ω、20Hz〜20kHz T.H.D 0.08%） 135W + 135W （負荷6Ω、JEITA）
サラウンドバック：	80W + 80W （負荷8Ω、20Hz〜20kHz T.H.D 0.08%） 135W + 135W （負荷6Ω、JEITA）

出力端子：

フロント：　A または B　6〜16Ω
A ＋ B　12〜16Ω
センター/サラウンド/サラウンドバック：　6〜16Ω

● **アナログ部**

入力感度/
入力インピーダンス： 200mV/47kΩ
周波数特性： 10Hz〜100kHz：＋1、－3dB（ダイレクトモード時）
S/N比： 98dB（ダイレクトモード時）

❏ビデオ部

● **標準映像端子**

入力出力レベル/
インピーダンス： 1Vp-p/75Ω
周波数特性： 5Hz〜10MHz：＋1、－3dB

● **S映像端子**

入出力レベル/
インピーダンス： Y（輝度）信号：　1Vp-p/75Ω
C（色）信号：　0.286Vp-p/75Ω
周波数特性： 5Hz〜10MHz：　＋1、－3dB

● **色差（コンポーネント）映像端子**

入出力レベル/
インピーダンス： Y（輝度）信号：　1Vp-p/75Ω
PB/CB（青色）信号：　0.7Vp-p/75Ω
PR/CR（赤色）信号：　0.7Vp-p/75Ω
周波数特性： DC〜100MHz：　＋0、－3dB

❏総合

電源： AC100V　50/60Hz
消費電力： 240W（電気用品安全法による）
1W未満（スタンバイ時）
最大外形寸法： 434（幅）×147（高さ）×417（奥行き）mm
（フット・つまみ・端子を含む）
質量： 11.6kg

❏リモコン（RC-1047）

乾電池： R6P（単3形）乾電池2本使用
外形寸法： 52（幅）×243（高さ）×21（奥行き）mm
質量： 175g（乾電池を含む）

※JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

保証とサービスについて

1 この商品には保証書を添付しております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書を添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

プリセットコード一覧表

DVD

Denon	014, ***[111]**
Aiwa	009
Hitachi	010
JVC	006, 011
Konka	012, 013
Magnavox	005
Mitsubishi	004
Panasonic	014
Philips	005, 015, 016, 017
Pioneer	003, 008
Sanyo	018
Sony	002, 019, 020
Toshiba	001, 021, 022
Zenith	023

VDP

Denon	028, 029, 112
Magnavox	026
Mitsubishi	028
Panasonic	029, 030
Philips	026
Pioneer	028, 031
RCA	032
Sony	033, 034, 035, 036

VCR

Admiral	081
Aiko	095
Aiwa	009
Akai	026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
Alba	055
Amstrad	009
ASA	042
Asha	087
Audio Dynamic	005, 085
Audiovox	088
Beaumark	087
Broksonic	086, 093
Calix	088
Candle	006, 087, 088, 089, 090
Canon	049, 057
Capehart	025, 055, 056, 071
Carver	015
CCE	095
Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
Craig	007, 087, 088, 091, 115
Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 090, 092
Cybernex	087
Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
Daytron	025, 055
DBX	005, 085
Dumont	053
Dynatech	009
Electrohome	001, 088, 097
Electrophonic	088
Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
Fisher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 099, 115
GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
Go Video	047, 048
Goldstar	000, 006, 012, 062, 088
Gradiente	094
Grundig	042
Harley Davidson	094
Harman Kardon	040, 062
Hi-Q	091
Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, ***[108]**, 109, 110, 111
JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
Jensen	013, 026
JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
Kodak	088
Lloyd	009, 094
LXI	088
Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
Magnin	087
Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
Marta	088
MEI	049
Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
Metz	123, 124, 125, 126, 127, 128
MGA	001, 017, 027, 041, 097
MGN Technology	087
Midland	011
Minolta	013, 023
Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 039, 040, 041, 045, 097
Motorola	081
Montgomery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117
MTC	009, 087, 094
Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
NAD	038
NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
Nikko	088
Noblex	087
Optimus	081, 088
Optonica	021
Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
Perdio	009
Pentax	009, 013, 023, 058, 090
Philco	015, 016, 049
Philips	015, 021, 042, 049, 105
Pilot	088
Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
Portland	025, 055, 090
Proscan	063, 080
Pulsar	060
Quartz	033
Quasar	034, 035, 049
Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115

Radix	088
Randex	088
RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098
Ricoh	055
Salora	033, 041
Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
Sanky	081
Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
SBR	042
Scott	017, 020, 086, 089, 093, 117
Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
Sentra	055
Sharp	001, 002, 021, 097
Shogun	087
Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
STS	023
Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
Symphonic	009, 094
Tandy	009
Tashiko	009, 088
Tatung	004, 026, 030
Teac	004, 009, 026, 094
Technics	024, 049
Teknika	009, 010, 022, 049, 088, 094
TMK	087, 092
Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
Totevision	007, 087, 088
Unirech	087
Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
Victor	005, 045, 046, 085
Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
Videosonic	007, 087
Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
XR-1000	094
Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Zenith	060, 078, 079

TV

Admiral	045, 121
Adventura	122
Aiko	054
Akai	016, 027, 046
Alleron	062
A-Mark	007
Amtron	061
Anam	006, 007, 036
Anam National	061, 147
AOC	003, 007, 033, 038, 039, 047, 048, 049, 133
Archer	007
Audiovox	007, 061
Bauer	155
Belcor	047
Bell & Howell	045, 118
Bradford	061
Brockwood	003, 047
Candle	003, 030, 031, 032, 038, 047, 049, 050, 122
Capehart	003
Celebrity	046
Circuit City	003
Citizen	029, 030, 031, 032, 034, 038, 047, 049, 050, 054, 061, 095, 122, 123
Concerto	031, 047, 049
Colortyme	003, 047, 049, 135
Contec	013, 051, 052, 061
Cony	051, 052, 061
Craig	004, 061
Crown	029
Curtis Mathes	029, 034, 038, 044, 047, 049, 053, 095, 118
Daewoo	027, 029, 039, 048, 049, 054, 055, 106, 107, 137
Daytron	003, 049
Dimensia	044
Dixi	007, 015, 027
Electroband	046
Electrohome	029, 056, 057, 058, 147
Elta	027
Emerson	029, 051, 059, 060, 061, 062, 118, 123, 124, 139, 148
Envision	038
Etron	027
Fisher	014, 021, 063, 064, 065, 118
Formenti	155
Fortress	012
Fujitsu	004, 062
Funai	004, 062
Futuretech	004
GE	020, 036, 037, 040, 044, 058, 066, 088, 119, 120, 125, 147
Goldstar	000, 015, 029, 031, 039, 048, 051, 056, 057, 067, 068, 069, 116
Grundy	062
Hitachi	029, 031, 051, 052, 070, 111, 112, 113, 124, *[134]
Hitachi Pay TV	151
Infinity	017, 071
Janeil	122
JBL	017, 071
JC Penny	020, 034, 039, 040, 041, 044, 048, 050, 058, 066, 069, 076, 088, 090, 095, 125, 136, 159
JCB	046
JVC	019, 051, 052, 072, 073, 091, 117, 126
Kawasho	018, 046
Kenwood	038, 056, 057
Kloss	010, 032
Kloss Novabeam	005, 122, 127, 131
KTV	074, 123
Loewe	071
Logik	144
Luxman	031
LXI	008, 014, 017, 024, 040, 044, 063, 071, 075, 076, 077, 118, 125

Magnavox	005, 010, 017, 030, 033, 038, 050, 056, 071, 078, 079, 085, 089, 108, 109, 110, 127, 131, 132, 145
Marantz	015, 017, 071, 080
Matsui	027
Memorex	014, 027, 045, 083, 118, 144
Metz	160, 161, 162, 163
MGA	001, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 083
Midland	125
Minutz	066
Mitsubishi	001, 016, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 082, 083, 105
Montgomery Ward	011, 020, 144, 145, 146
Motorola	121, 147
MTC	031, 034, 039, 048, 095
NAD	008, 075, 076, 128
National	002, 036, 061, 147
National Quenties	002
NEC	031, 038, 039, 048, 057, 084, 086, 135, 147
Nikko	054
NTC	054
Optimus	128
Optonica	011, 012, 093, 121
Orion	004, 139
Panasonic	002, 009, 017, 036, 037, 071, 141, 143, 147
Philco	005, 010, 030, 050, 051, 056, 079, 085, 127, 131, 132, 145, 147
Philips	005, 015, 017, 050, 051, 056, 078, 087, 088, 089, 131, 132, 147
Pioneer	124, 128, 142
Portland	054
Price Club	095
Proscan	040, 044, 125
Proton	035, 051, 092, 129
Pulsar	042
Quasar	036, 037, 074, 141
Radio Shack	011, 044, 063, 093, 118
RCA	040, 044, 125, 130, 137, 151, 152
Realistic	014, 063, 093, 118
Saisho	027
Samsung	003, 015, 034, 053, 055, 057, 094, 095, 136, 153
Sansui	139
Sanyo	013, 014, 021, 022, 063, 064, 081, 096
SBR	015
Schneider	015
Scott	062
Sears	008, 014, 021, 022, 023, 024, 025, 040, 052, 057, 062, 063, 064, 065, 073, 075, 076, 097, 098, 125, 159
Sharp	011, 012, 013, 026, 093, 099, 100, 104, 121
Siemens	013
Signature	045, 144
Simpson	050
Sony	043, 046, 138, 146, 150
Soundesign	030, 050, 062
Spectricon	007, 033
Squareview	004
Supre-Macy	032, 122
Supreme	046
Sylvania	005, 010, 017, 030, 078, 079, 085, 089, 101, 127, 131, 132, 145, 155
Symphonic	004, 148
Tandy	012, 121
Tatung	036, 124
Technics	037
Teknika	001, 030, 032, 034, 052, 054, 078, 083, 095, 144, 156, 157
Tera	035, 129
THOMSON	165, 166
Toshiba	008, 014, 034, 063, 075, 076, 095, 097, 136, 158, 159
Universal	020, 066, 088
Victor	019, 073, 126
Video Concepts	016
Viking	032, 122
Wards	005, 045, 066, 078, 085, 088, 089, 093, 102, 103, 131, 132, 148
Zenith	042, 114, 115, 140, 144, 149
Zonda	007

CABLE

ABC	006, ***[007]**, 008, 009
Archer	010, 011
Century	011
Citizen	011
Colour Voice	012, 013
Comtronic	014
Eastern	015
Garrard	011
Gemini	030, 033, 034
General Instrument	030, 031, 032
Hytex	006
Jasco	011
Jerrold	009, 016, 017, 026, 032
Magnavox	018
Movie Time	019
NSC	019
Oak	000, 006, 020
Panasonic	001, 005
Philips	011, 012, 013, 018, 021
Pioneer	002, 003, 022
RCA	029
Regency	015
Samsung	014, 023
Scientific Atlanta	004, 024, 025
Signal	014
SL Marx	014
Starcom	009
Stargate	014
Teleview	014
Tocom	007, 016
TV86	019
Unika	011
United Artists	006
Universal	010, 011
Viewstar	018, 019
Zenith	027, 028

DBS (SATELLITE)

Alphastar	054
Chaparral	035, 036
Dishnet	053
Drake	037, 038

Echostar Dish	062, 066
GE	048, 055, 056
General Instruments	039, 040, 041
Grundig	070, 071, 072, 073
Hitachi	058, 059
Hughes Network	063, 064, 065, 069
JVC	057
Kathrein	074, 075, 076, 083
Magnavox	060
Nokia	070, 080, 084, 085, 086
Philips	060
Primestar	051
Proscan	048, 055, 056
RCA	048, 055, 056, 068
Realistic	042
Sierra I	036
Sierra II	036
Sierra III	036
Sony	049, 067
STS1	043
STS2	044
STS3	045
SRS4	046
Technisat	077, 078, 079, 081, 082
Toshiba	047, 050
Uniden	061

CD

Denon	***[111]**, 044
Aiwa	001, 035, 043
Burmster	002
Carver	003, 035
Emerson	004, 005, 006, 007
Fisher	003, 008, 009, 010
JVC	018, 019
Kenwood	011, 012, 013, 014, 017
Magnavox	006, 015, 035
Marantz	016, 028, 035
MCS	016, 024
Onkyo	025, 027
Optimus	017, 020, 021, 022, 023
Philips	014, 032, 033, 035
Pioneer	006, 022, 030
Sears	006
Sony	023, 031
Teac	002, 009, 028
Technics	016, 029, 036
Wards	035, 037
Yamaha	038, 039, 040, 041
Zenith	042

CDR

Denon	***[111]**, 112
Philips	112

MD

Denon	113
Kenwood	003, 004
Onkyo	007
Sharp	005
Sony	006

TAPE

Denon	***[111]**
Aiwa	001, 002
Carver	002
Harman/Kardon	002, 003
JVC	004, 005
Kenwood	006
Magnavox	002
Marantz	002
Onkyo	016, 018
Optimus	007, 008
Panasonic	012
Philips	002
Pioneer	007, 008, 009
Sony	013, 014, 015
Technics	012
Victor	004
Wards	007
Yamaha	010, 011

*[ ]：工場出荷時に設定されているプリセットコードです。

プリセットコード	111	014
DENON製 DVDプレーヤー	DVD-550 DVD-700 DVD-900 DVD-1000 DVD-1400 DVD-1500 DVD-1710 DVD-1910 DVD-2200 DVD-2800 DVD-2800Ⅱ DVD-2900 DVD-2910 DVD-3800 DVD-3910 DVD-A11 DVD-A1 DVD-A1XV	DVD-800 DVD-1600 DVD-2000 DVD-2500 DVD-3000 DVD-3300

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30～12：00、12：45～17：30
（弊社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。

http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　00D 511 4500 103